

8.9 動物

8.9.1 調査

(1) 調査項目

1) 既存資料調査

既存資料調査の調査項目は、以下に示すとおりとした。

- ・事業実施区域及びその周囲における貴重・希少生物の確認状況

2) 現地調査

動物調査の現地調査項目は、表 8.9-1 に示すとおりである。

表 8.9-1 調査項目

調査項目		調査内容	
陸域動物	哺乳類	動物相(哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類)の状況 重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況、生息環境の状況 重要な種の選定基準	
	鳥類		
	爬虫類		
	両生類		
	昆虫類		
水域動物	魚類	動物相(魚類、底生動物)の状況 重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況、生息環境の状況 重要な種の選定基準	
	底生動物		
	汽水域の環境	餌生物	動植物プランクトン相の状況 魚類、底生動物の餌生物としての状況
		水質	魚類、底生動物の生息環境としての汽水域の水質の状況 上げ潮時及び下げ潮時の水質の状況
		底質	底生動物の生息環境としての底質の状況 底質の物理・化学的性状
		水象	魚類・底生動物の生息環境としての流れ・濁りの状況 流況及び濁度の平常時と増水時の比較
		干潟地形	魚類・底生動物の生息場の状況 河床地形、干潟地形の出水前後の比較

(2) 調査方法

1) 既存資料調査

事業実施区域及びその周囲における貴重・希少生物の確認状況を「福岡市環境配慮指針(改定版)」(平成28年9月 福岡市環境局)の情報をを用いて整理及び解析した。

2) 現地調査

a) 哺乳類

調査方法及び調査内容を表8.9-2に示す。また、調査位置を図8.9-1(1)に示す。

調査は小型～中大型哺乳類を対象にフィールドサイン法、目撃法、トラップ法等により実施した。

表 8.9-2 調査方法及び調査内容

調査方法	調査内容
目視観察、フィールドサイン法	・調査範囲を任意に踏査し、直接目視もしくは足跡や糞等の痕跡(フィールドサイン)によって確認された哺乳類の種名、確認位置、観察数、観察内容、生息環境等を記録する。イタチ類の同定を行うために糞のDNA分析を行った。
トラップ法	・小型哺乳類の確認を目的とした捕獲罠により捕獲調査を実施する。 ・捕獲した哺乳類の種名、頭胴長、尾長、耳長、後肢長等の同定に必要なデータ及び生息環境等を記録する。
シャーマントラップ※	・主に小型ネズミ類を対象とする。 ・1地点につき、10～20個ずつ設置する。 ・誘因餌は、ピーナッツ、押し麦、魚肉ソーセージなどを用いる。
かご罠	・主にイタチ類を対象とする。 ・1地点につき、1～2台設置する。 ・誘因餌は、ピーナッツ、魚肉ソーセージなどを用いる。
墜落かん	・主にジネズミ、ヒミズ等を対象とする。 ・1地点につき、5～10個設置する。
自動撮影調査法 (自動撮影装置)	・個体の撮影を目的とした自動撮影装置を設置する。 ・自動撮影装置は1地点につき、1台ずつ設置する。 ・けもの道や移動経路、水場等に設置する。 ・誘因餌としてバナナ、鳥ミンチ、クラッカーなどを用いる。
ナイトセンサス法	・夜間に活動個体を観察する。 ・調査は圃場や林縁部を中心に調査を実施し、確認された哺乳類の種名、確認位置、観察数、観察内容、生息環境等を記録する。
バットディテクター	・コウモリ類を対象として、バットディテクター及び網による捕獲等の夜間調査を任意に実施する。

※シャーマントラップについては、方法書時点での専門家ヒアリングにおいて、小型より大型の方がよい旨の意見があったが、大型のシャーマントラップよりかご罠の方が捕獲対象範囲が広いことから、かご罠を使用した。また、かご罠では小型のネズミ類が捕獲できないため、小型シャーマントラップを用いた。

b) 鳥類

調査方法及び調査内容を表 8.9-3 に示す。また、調査位置を図 8.9-1(2) に示す。

表 8.9-3 調査方法及び調査内容

調査方法	調査内容
任意観察 (夜間調査を含む)	・ラインセンス法により把握された鳥類の利用頻度が高い環境などにおいて、日中、任意に踏査を実施し、新たに出現した種や環境指標性の高い鳥類を捕捉する。 ・日没前～夜間に任意に定点設定することにより、フクロウ類など夜行性鳥類の生息状況を把握する。
ラインセンス法	・耕作地、集落、植林、竹林、河川沿いなど多様な環境を含むルートを設定し、草地～森林性の幅広い鳥類を確認し、調査地及び周辺の鳥類相を把握する。
定点観察法	・調査地を広範囲でみわたせる環境に定点を設定し、移動中の鳥類や広範囲を利用する猛禽類の状況を把握する。
フィールドサイン法	・地面に落ちている羽根や巣などの確認を行う。

c) 爬虫類

調査方法及び調査内容を表 8.9-4 に示す。また、調査位置を図 8.9-1(3) に示す。

表 8.9-4 調査方法及び調査内容

調査方法	調査内容
目視観察	・調査範囲を任意に踏査し、捕獲、目撃、死体等により確認された爬虫類の種名、確認位置、観察数、観察内容、生息環境等を記録する。 ・現場において種の確認が困難なものについては持ち帰り、同定を行う。

d) 両生類

調査方法及び調査内容を表 8.9-5 に示す。また、調査位置を図 8.9-1(4) に示す。

表 8.9-5 調査方法及び調査内容

調査方法	調査内容
目視観察	・調査範囲を任意に踏査し、捕獲、目撃、死体、鳴き声等により確認された両生類の種名、確認位置、観察数、観察内容、生息環境等を記録する。 ・現場において種の確認が困難なものについてはホルマリン等で固定して持ち帰り、同定を行う。

e) 昆虫類

調査方法及び調査内容を表 8.9-6 に示す。また、調査位置を図 8.9-1(5)に示す。
 なお、宇美川沿いの昆虫類の調査は、任意調査により実施した。

表 8.9-6 調査方法及び調査内容

調査方法	調査内容
任意採集(スウィーピング法、ビーティング法) 目視観察	<ul style="list-style-type: none"> ・調査範囲を任意に踏査し、目視や鳴き声等で確認された種を記録するほか、捕虫網を使用してスウィーピング及びビーティング等により採集を行う。 ・採集した個体については、試料として持ち帰り、種の同定を行う。
ベイトトラップ法	<ul style="list-style-type: none"> ・任意採集法では採集しきれないオサムシ類等の地表徘徊性の昆虫類を対象として実施する。 ・誘引餌(ベイト)を入れたコップを地表部に埋め込み、誘い込んで採集する方法。 ・誘引餌には、糖蜜や腐肉及びさなぎ粉等を用いる。
ライトトラップ法	<ul style="list-style-type: none"> ・ガ類、コウチュウ類、カメムシ類などの走光性昆虫類(光に集まる種類)を対象として実施する。 ・白色のスクリーンを張り、その前面に捕虫用ライト、ブラックライト等を吊るし、日没後から約 2 時間程度、スクリーンに集まる昆虫を吸虫管、殺虫管、捕虫ネットを用いて採集する。

f) 魚 類

調査方法及び調査内容を表 8.9-7 に示す。また、調査位置を図 8.9-1(6)に示す。

表 8.9-7 調査方法及び調査内容

調査方法	調査内容
捕獲調査(投網、タモ網、サデ網、定置網、地曳き網、セルビンなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・魚類は漁具(投網、タモ網、サデ網、カニカゴ、セルビン、定置網、地曳き網、延縄等)による捕獲を適宜使用して任意に採集し、確認された種を記録する。 ・目視観察により種の確認ができた個体についても記録を行う。 ・採集個体は、現地にて種の確認が困難な個体のみをホルマリン等で固定して持ち帰り、同定を行う。 ・投網、タモ網、サデ網による調査は、調査範囲全体で実施する。 ・セルビン、カニカゴは数カ所に数時間程度仕掛けておき、引き揚げる。

g) 底生動物

調査方法及び調査内容を表 8.9-8 に示す。また、調査位置を図 8.9-1(7)に示す。

表 8.9-8 調査方法及び調査内容

調査方法	調査内容
定性採集法	<ul style="list-style-type: none"> ・定性採集は主にタモ網を使用して任意に採集し、得られた試料を持ち帰り同定する。 ・定性採集では、多くの環境に生息する底生動物を採集することを目的とし、流水部、水際等に適宜、調査箇所を設定して採集を行う。 ・基本的にはタモ網を主に用いるが、必要に応じて様々な採集用具を用いて調査を行う。 ・採集検体は、各地点 1 サンプルとする(複数のサンプルをひとまとめにする)。
定量採集法	<ul style="list-style-type: none"> ・定量採集は干潟環境ではサーパーネット(30cm×30cm 目合 0.493mm(NGG38))を使用して定量的に採集し、得られた資料を持ち帰り同定する。 ・採集に際しては、逆流防止とネットやサンプルの破損防止のため、石等はネットに入れずにバケツに直接入れるようにする。 ・採集は同様の環境で 4 回行い、各コドラートを同サンプルとする(4 つのサンプルをひとまとめにする)。

h) 汽水域の環境

調査方法及び調査内容を表 8.9-9 に示す。また、調査位置を図 8.9-1(8)に示す。

表 8.9-9 調査方法及び調査内容

調査方法	調査内容
餌生物(動植物プランクトン)の定量採集	<ul style="list-style-type: none"> ・プランクトンネットによる動物プランクトン採集を行う ・バンドーン型採水器による植物プランクトン採集を行う。
汽水水質	<ul style="list-style-type: none"> ・バンドーン型採水器による採水を上げ潮時・下げ潮時に表層・下層で行う。 ・多項目水質計で 0.1m ピッチで上げ潮時・下げ潮時に機器測定を行う。 ・採水分析はクロロフィル、pH、化学的酸素要求量、溶存酸素量、浮遊物質量、全窒素、全りんとし、多項目水質計はクロロフィル、pH、溶存酸素量、濁度、水温、塩分とする。
汽水底質	<ul style="list-style-type: none"> ・海底面から深さ 10cm までを採取し分析する。 ・分析は強熱減量、硫化物、全窒素、全りん、CODsed、粒度組成とする。
水象	<ul style="list-style-type: none"> ・メモリー式流速計、メモリー式濁度計を係留し、流況と濁度の 15 昼夜連続観測を平水時・増水時の 2 回実施する。
干潟地形	<ul style="list-style-type: none"> ・深浅測量及び汀線測量を台風等の大雨の出水前と出水後の 2 回実施する。

(3) 調査地域・調査期日等

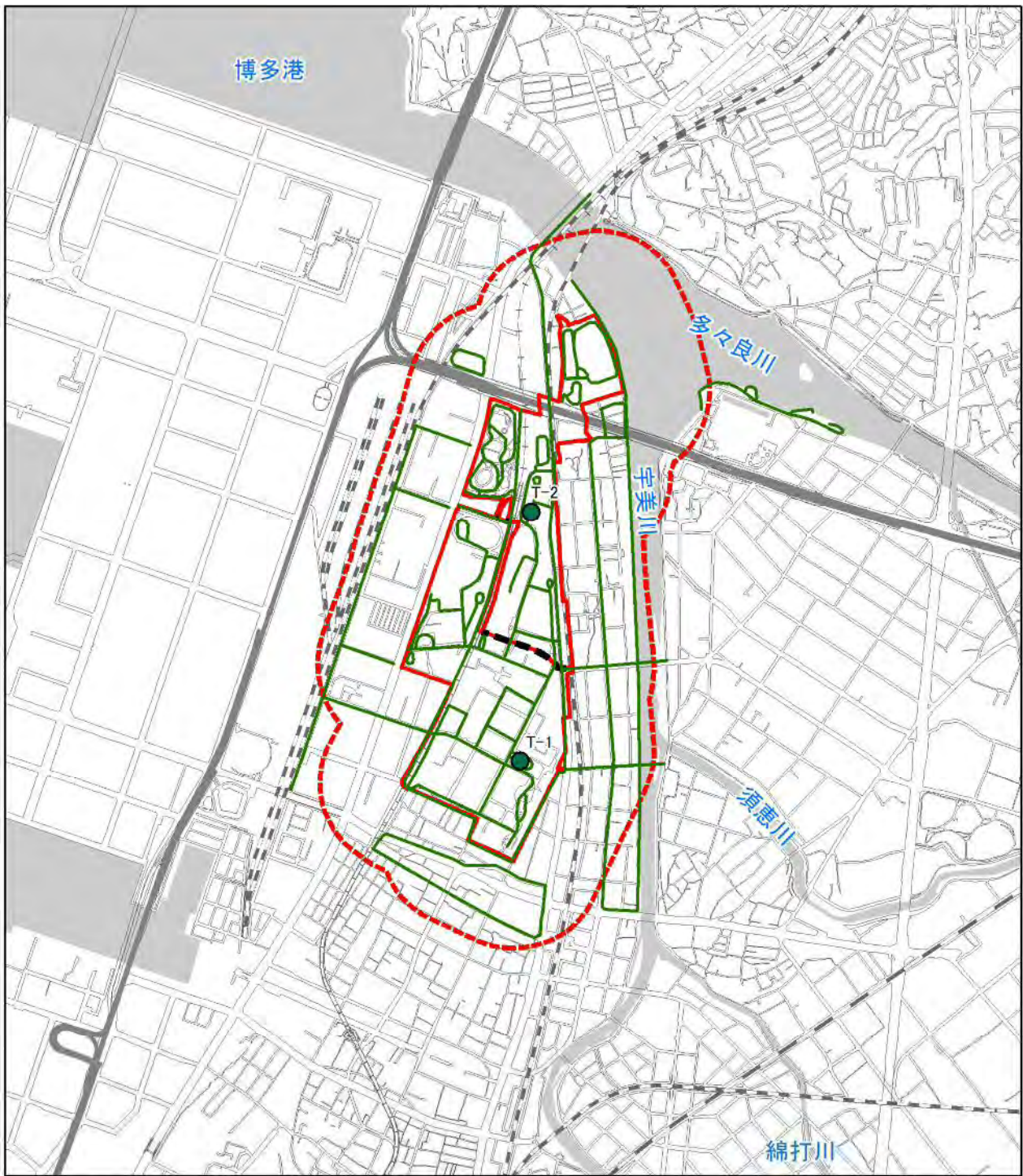
調査地域は、事業実施区域及びその周囲 250m の範囲とし、全域を対象とすることを基本としたが、確認された動物の行動圏等生態特徴を考慮して、適宜周辺を加えた。また、立ち入りができない場所(住宅地内、東部水処理センター敷地内、工場・社有地内等)は踏査を除外した。汽水域の環境のうち図 8.9-1(8)に示す汽水水質の調査地点は、水質調査地点と同じ位置であるが地点番号は①以外異なっている。また、汽水底質調査地点は、底質調査地点と同じ位置であるが地点番号は全て異なっている。

調査期日は表 8.9-10 に示すとおりである。

なお、水象及び干潟地形の調査日は、方法書時点では 6～7 月を想定していたが、天候不順(豪雨・台風等)の影響で現地進入ができず、8～10 月の期間内にずれ込んだ。

表 8.9-10 調査項目別調査日

調査項目		調査内容	調査日
動物	哺乳類	目視観察、フィールドサイン法、トラップ法(シャーマントラップ、カゴ罠、墜落かん)、自動撮影調査法(自動撮影装置)、ナイトセンサ法、バットディテクター	夏季:平成 29 年 6 月 29 日、7 月 4～6 日、8 月 18 日 秋季:平成 29 年 9 月 24、27 日、10 月 25～27 日、11 月 6 日 冬季:平成 30 年 1 月 22～25 日 春季:平成 30 年 5 月 9、11～12 日
	鳥類	任意観察(夜間調査含む)、ラインセンサ法、定点観察法、フィールドサイン法	夏季(繁殖期後期):平成 29 年 6 月 27～30 日 秋の渡り:平成 29 年 9 月 24～28 日 越冬期:平成 30 年 1 月 22～25 日 春の渡り:平成 30 年 4 月 23～25 日 繁殖期前期:平成 30 年 5 月 21～23 日
	爬虫類	目視観察	夏季:平成 29 年 6 月 29 日、7 月 4～6 日 秋季:平成 29 年 10 月 25～27 日 春季:平成 30 年 5 月 9、11～12 日
	両生類	目視観察	夏季:平成 29 年 6 月 29 日、7 月 4～6 日 秋季:平成 29 年 10 月 25～27 日 産卵期:平成 30 年 2 月 23 日 春季:平成 30 年 5 月 9、11～12 日
	昆虫類	任意採集法(スィーピング法、ビーティング法)、目視観察、ベイトトラップ法、ライトトラップ法	夏季:平成 29 年 6 月 29～30 日、7 月 1 日 秋季:平成 29 年 9 月 24～26 日 春季:平成 30 年 4 月 25～27 日
	魚類	捕獲調査(投網、タモ網、サデ網、定置網、地曳き網、セルビンなど)	夏季:平成 29 年 8 月 18～20 日 秋季:平成 29 年 10 月 13～15 日 早春季:平成 30 年 2 月 26～28 日 春季:平成 30 年 4 月 26～28 日
	底生動物	定性採集法、定量採集法	夏季:平成 29 年 8 月 19～20 日 早春季:平成 30 年 2 月 26～28 日 春季:平成 30 年 4 月 26～28 日
汽水域の環境	餌生物(動物植物プランクトン)の定量採集	動物プランクトン:ネット採集 植物プランクトン:採水法	夏季:平成 29 年 8 月 20 日 秋季:平成 29 年 10 月 15 日 早春季:平成 30 年 2 月 28 日 春季:平成 30 年 4 月 28 日
	汽水水質	機器測定、採水分析	夏季:平成 29 年 8 月 19 日 秋季:平成 29 年 10 月 14 日 早春季:平成 30 年 2 月 26 日 春季:平成 30 年 4 月 26 日
	汽水底質	採泥分析	夏季:平成 29 年 8 月 19 日 早春季:平成 30 年 2 月 26 日 春季:平成 30 年 4 月 26 日
	水象	流況(流向・流速)、濁度	平常時:平成 29 年 9 月 11 日～25 日 増水時:平成 29 年 9 月 27 日～10 月 11 日
	干潟地形	深浅測量、汀線測量	出水前:平成 29 年 8 月 22 日～25 日 出水後:平成 29 年 9 月 25 日～28 日



凡 例

- 事業実施区域
- 調査範囲
- 北エリア・南エリア境界
- 福岡都市高速
- JR
- 新幹線
- 私鉄
- 地下鉄
- 水域

- フィールドサイン、目撃・捕獲
- トラップ、自動撮影装置

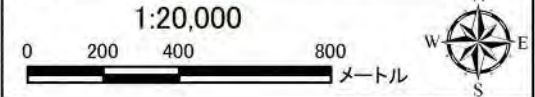
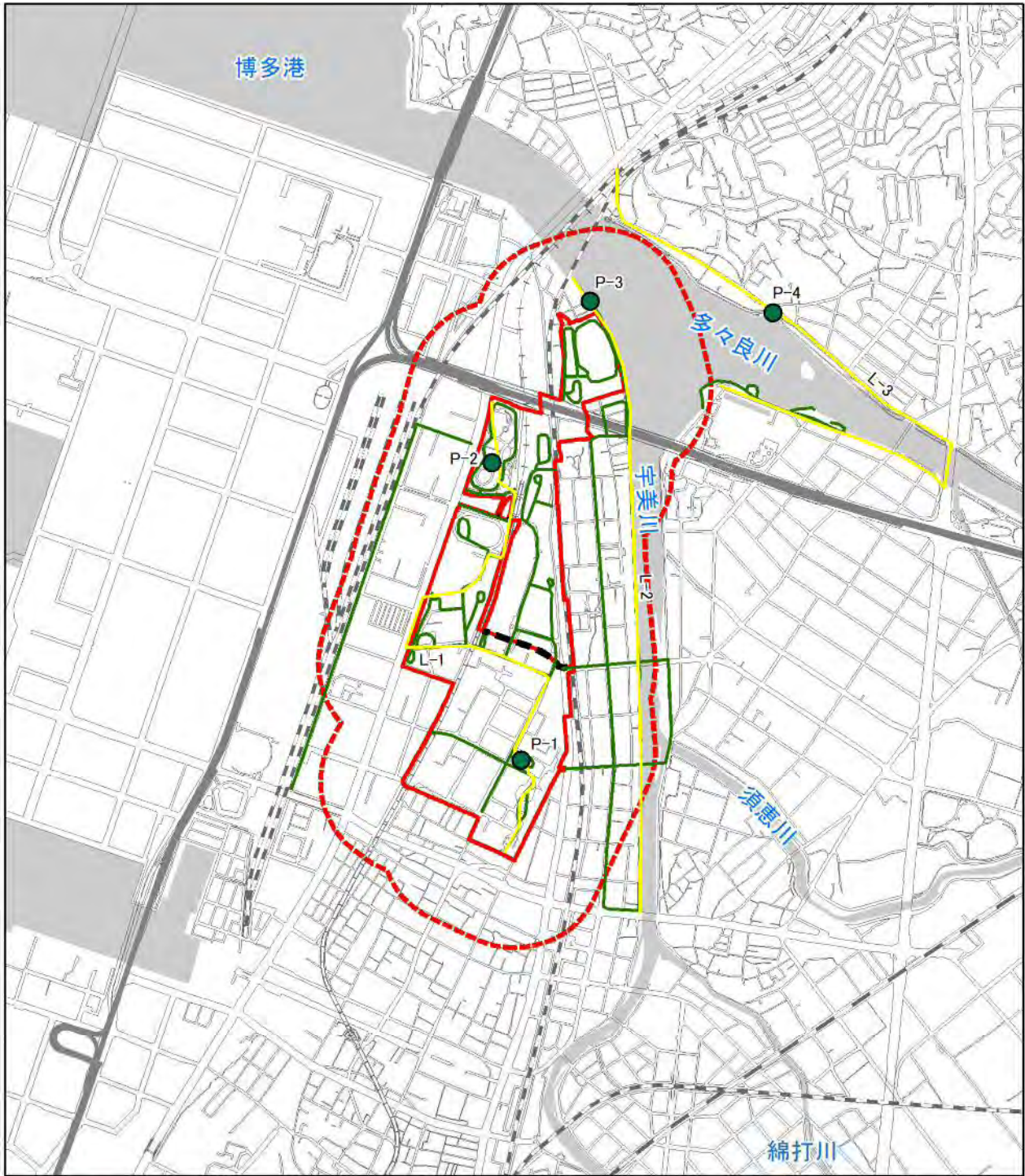


図 8.9-1(1) 哺乳類調査位置図



凡例

- | | |
|-------------|--------|
| 事業実施区域 | ラインセンス |
| 調査範囲 | 任意踏査 |
| 北エリア・南エリア境界 | 定点記録 |
| 福岡都市高速 | |
| JR | |
| 新幹線 | |
| 私鉄 | |
| 地下鉄 | |
| 水域 | |

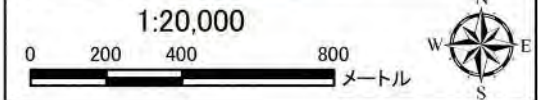
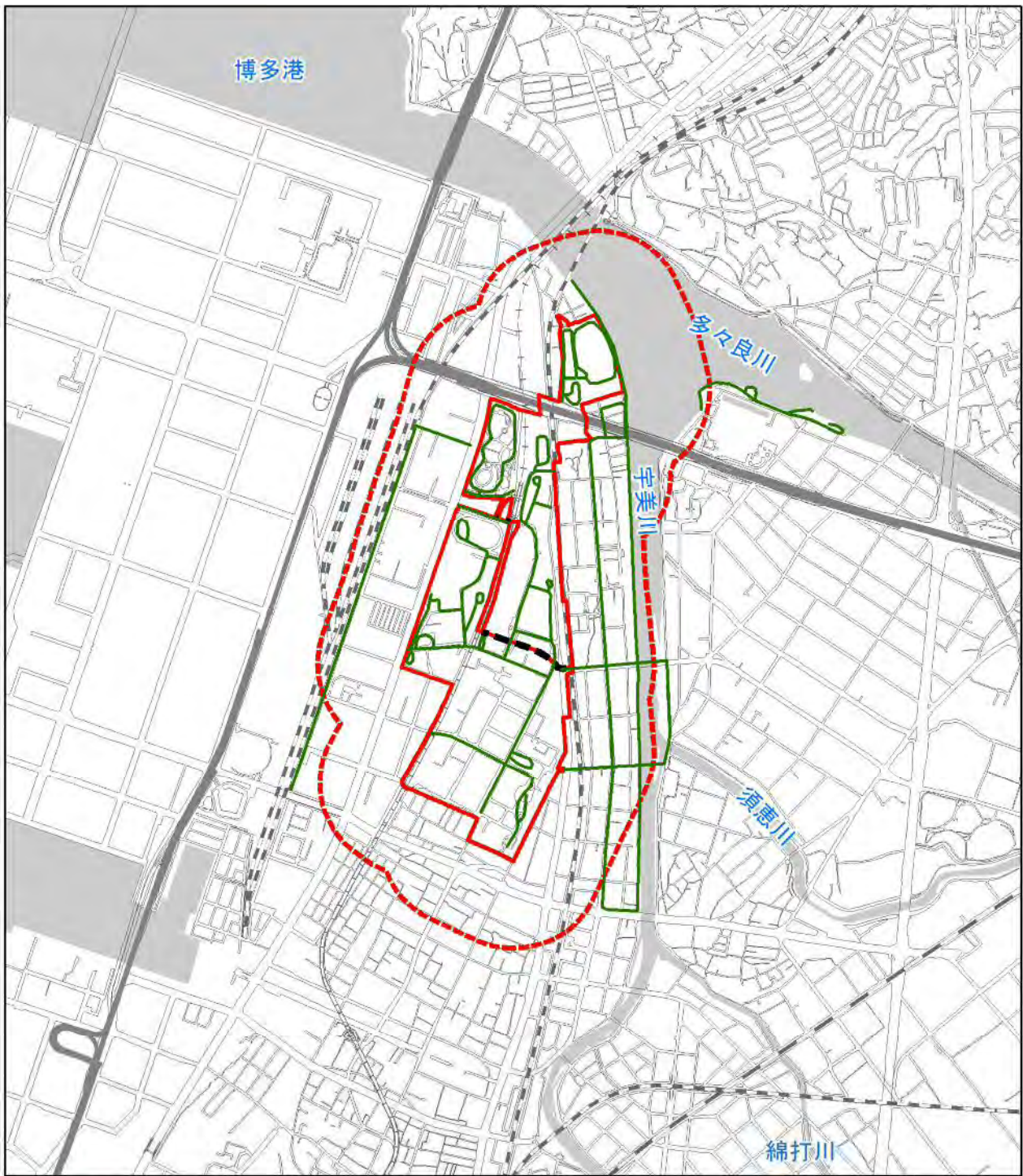


図 8.9-1(2) 鳥類調査位置図



凡 例

- 事業実施区域
- 調査範囲
- 北エリア・南エリア境界
- 福岡都市高速
- JR
- 新幹線
- 私鉄
- 地下鉄
- 水域
- 目撃・捕獲

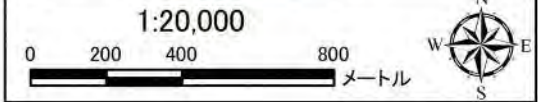
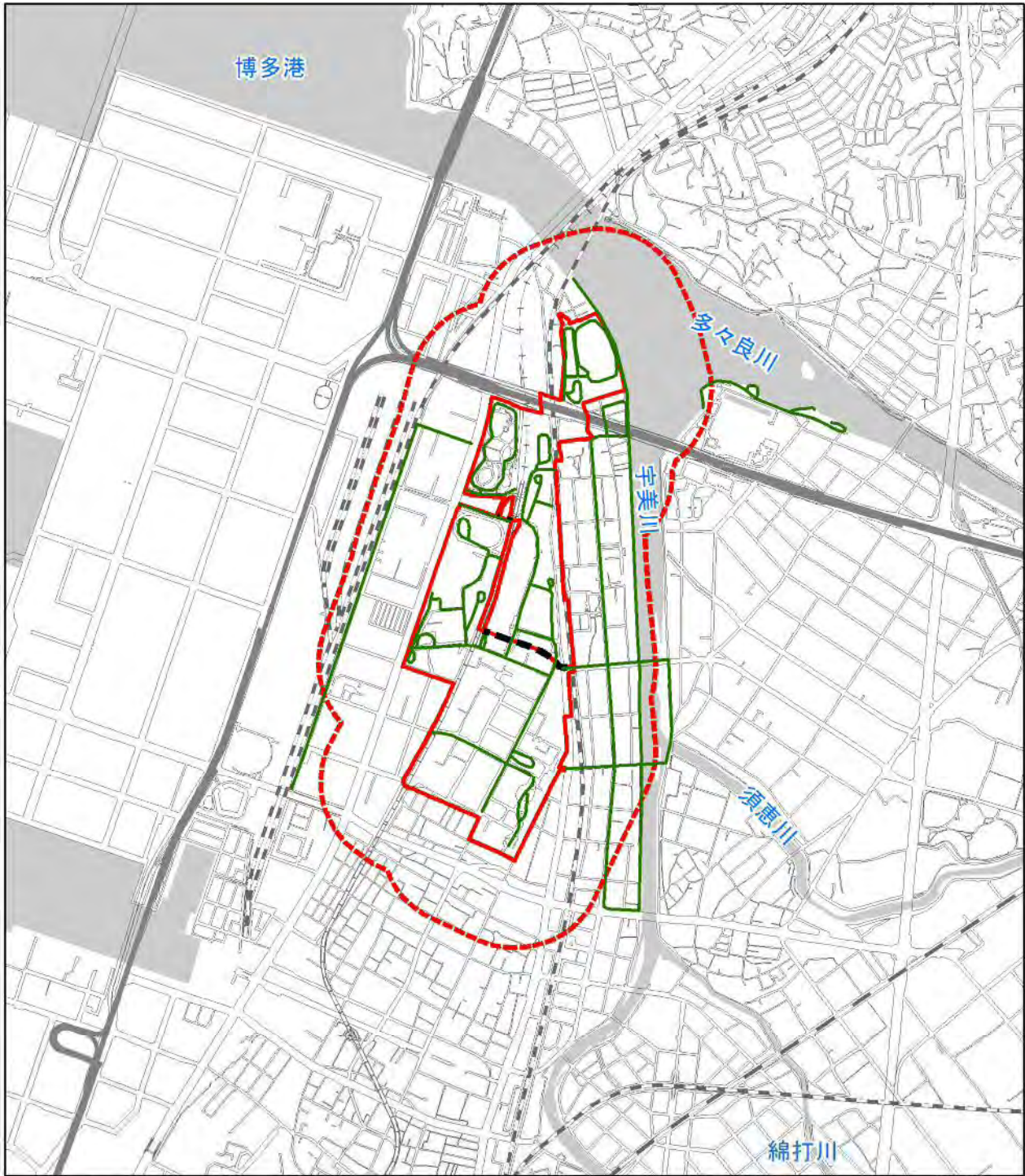


図 8.9-1(3) 爬虫類調査位置図



凡例

- 事業実施区域
- 調査範囲
- 北エリア・南エリア境界
- 福岡都市高速
- JR
- 新幹線
- 私鉄
- 地下鉄
- 水域
- 目撃・捕獲

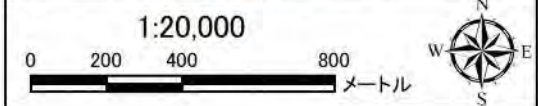
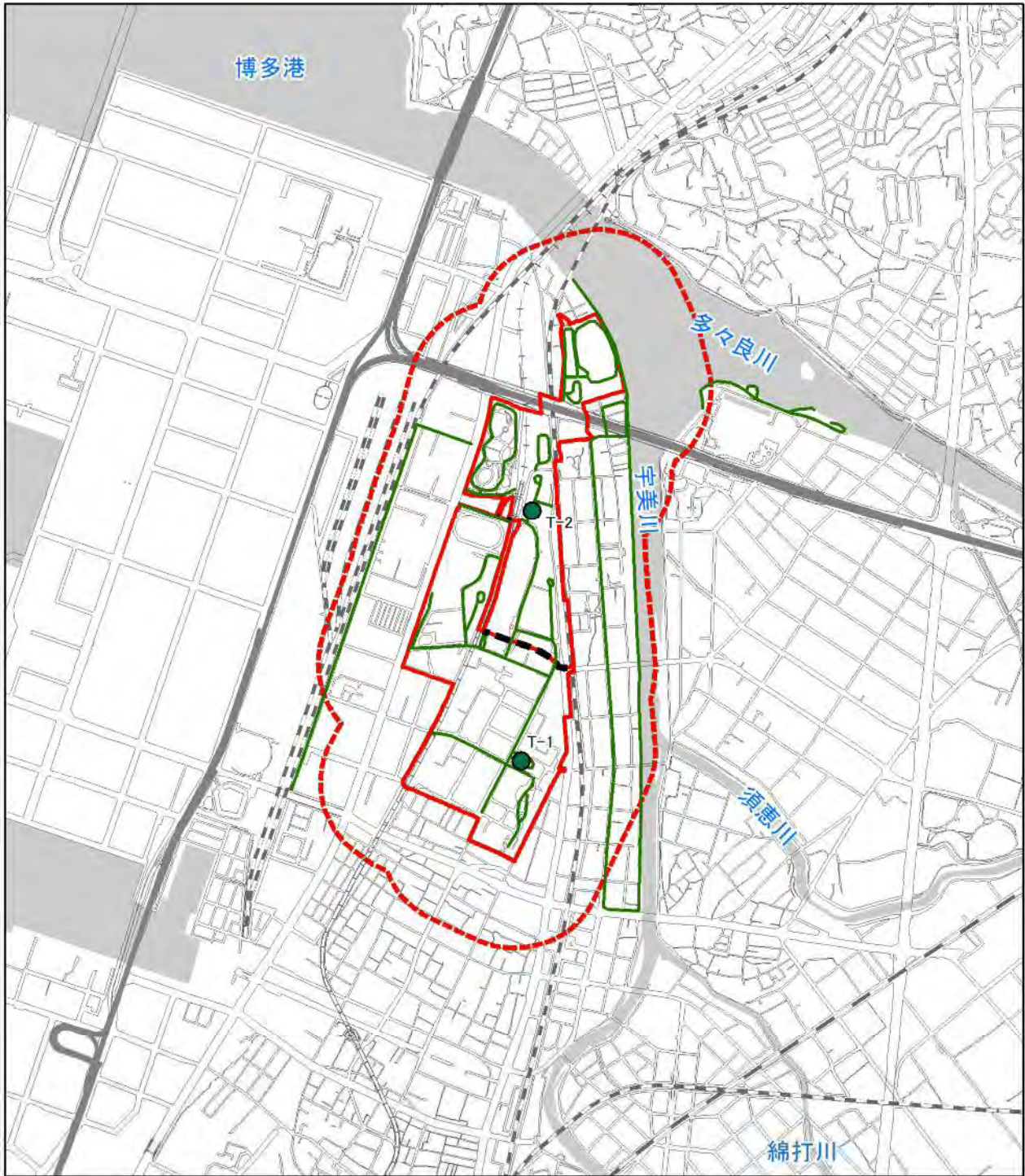


図 8.9-1(4) 両生類調査位置図



凡例

- 事業実施区域
- 調査範囲
- 北エリア・南エリア境界
- 福岡都市高速
- JR
- 新幹線
- 私鉄
- 地下鉄
- 水域

- 任意採集
- ライトトラップ・ベイトトラップ

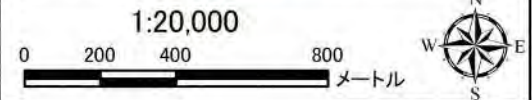
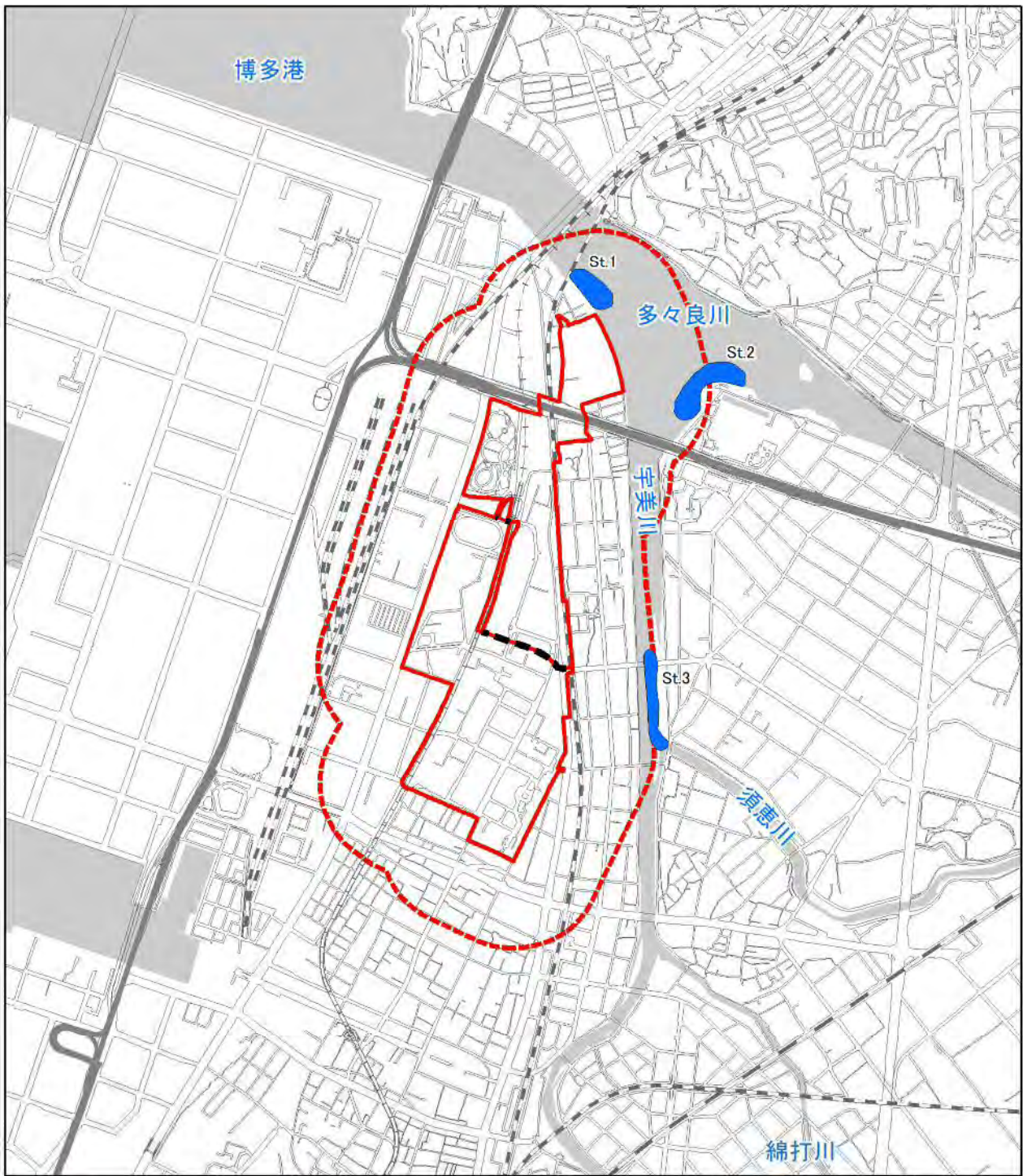


図 8.9-1(5) 昆虫類調査位置図



凡例

- 事業実施区域
- 調査範囲
- 北エリア・南エリア境界
- 福岡都市高速
- JR
- 新幹線
- 私鉄
- 地下鉄
- 水域
- 捕獲および目視調査

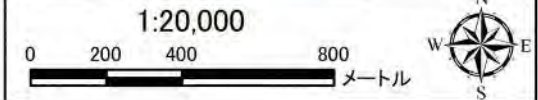
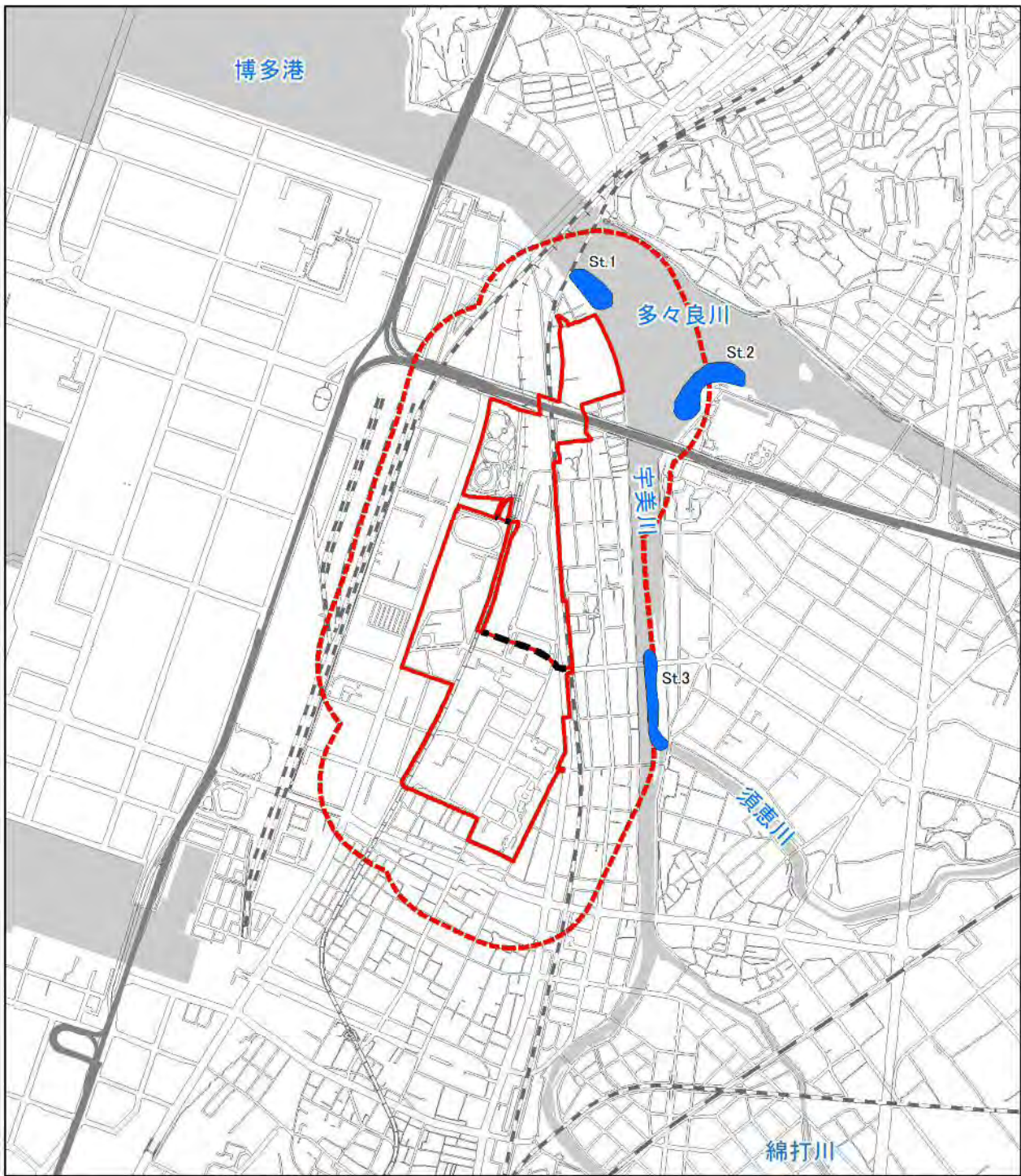


図 8.9-1(6) 魚類調査位置図



凡例

- 事業実施区域
- 調査範囲
- 北エリア・南エリア境界
- 福岡都市高速
- JR
- 新幹線
- 私鉄
- 地下鉄
- 水域
- 定性採集・定量採集

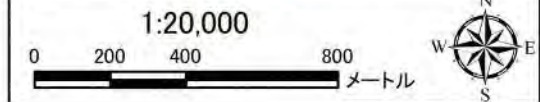
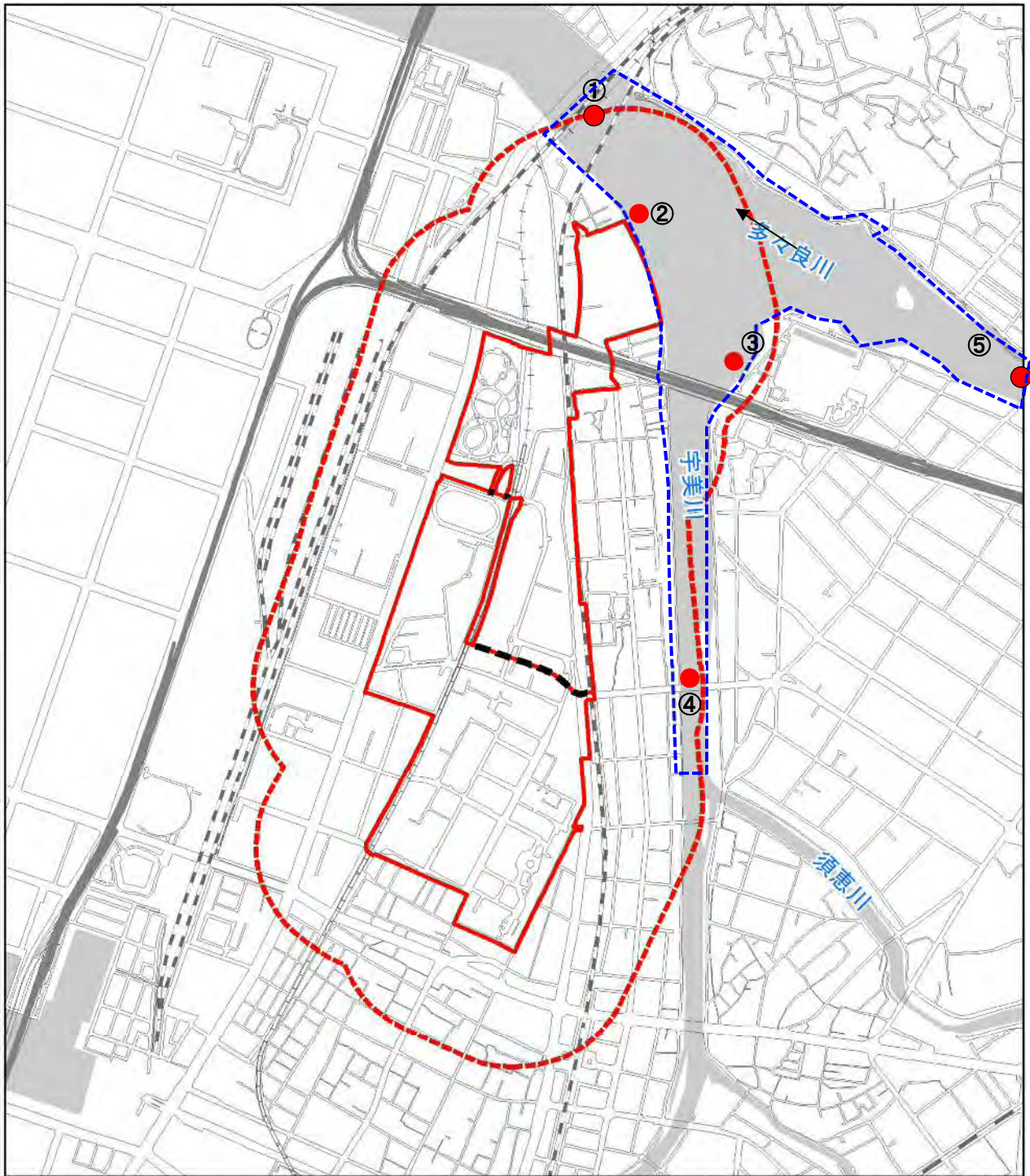


図 8.9-1(7) 底生動物調査位置図



凡例

■ 事業実施区域

■ 調査範囲

■ 北エリア・南エリア境界

— 福岡都市高速

— JR

— 新幹線

— 私鉄

— 地下鉄

■ 水域

--- 汽水域の環境の調査範囲

● 汽水域の環境の現地調査地点

①: 餌生物、水質、流況、干潟地形

②: 底質

③: 餌生物、水質、底質

④: 餌生物、水質、底質、流況、干潟地形

⑤: 餌生物、水質、流況、干潟地形

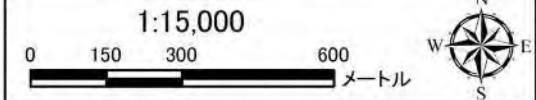


図 8.9-1(8) 汽水域の環境調査位置図

(4) 調査結果

1) 既存資料調査

事業実施区域及びその周囲の、貴重・希少生物の確認状況は「福岡市環境配慮指針(改定版)」(平成28年9月 福岡市環境局)によると、以下に示すとおりである。

a) 哺乳類

事業実施区域及びその周囲において、哺乳類の貴重・希少生物は確認されていない。

b) 両生類・爬虫類

事業実施区域及びその周囲において、両生類・爬虫類の貴重・希少生物は確認されていない。

c) 鳥類

事業実施区域及びその周囲における鳥類の貴重・希少生物の確認状況は、表 8.9-11 及び図 8.9-2 に示すとおりである。

事業実施区域及びその周囲において確認されている貴重・希少生物は、クロツラヘラサギ、カンムリカイツブリ、コアジサシ、ズグロカモメ、ダイシャクシギ、ハチクマ、ハヤブサ、ミサゴ、オオヨシキリ、キビタキ等の48種である。

表 8.9-11 事業実施区域及びその周囲の貴重・希少生物(鳥類)

目	科	種名	福岡市 環境配 慮指針	カテゴリー		
				環境省 RDB	福岡県 RDB	その他の指定状況
カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	●		NT	
コウノトリ	サギ	チュウサギ	●	NT	NT	
		カラシラサギ	●	NT	EN	
		アマサギ	●		NT	
		ササゴイ	●		NT	
	トキ	ヘラサギ	●	DD	EN	
		クロツラヘラサギ	●	EN	EN	
カモ	カモ	ツクシガモ	●	VU	NT	
		オシドリ	●	DD	NT	
		トモエガモ	●	VU	VU	
		シノリガモ	●		VU	
		ホオジロガモ	●		VU	
		アカハジロ	●	DD		
		マガン	●	NT		国指定天然記念物
		ミコアイサ	●		VU	
タカ	タカ	ハイタカ	●	NT		
		ハチクマ	●	NT	NT	
		ミサゴ	●	NT		
	ハヤブサ	ハヤブサ	●	VU	VU	
チドリ	チドリ	シロチドリ	●	VU	NT	
		イカルチドリ	●		VU	
	シギ	ウズラシギ	●		VU	
		ヘラシギ	●	CR	CR	
		シベリアオオハシシギ	●	DD		
		アカアシシギ	●	VU		
		カラフトアオアシシギ	●	CR	CR	国内希少野生動植物種
		ダイシャクシギ	●		VU	
		ホウロクシギ	●	VU	VU	
		オオジシギ	●	NT		
		オオソリハシシギ	●	VU	NT	
		オグロシギ	●		NT	
		ハマシギ	●	NT	NT	
		ツルシギ	●	VU		
		ミュビシギ	●		NT	
	セイタカシギ	セイタカシギ	●	VU		
	カモメ	ズグロカモメ	●	VU	VU	
		コアジサシ	●	VU	VU	
	スズメ	ウグイス	オオヨシキリ	●		NT
センダイムシクイ			●		VU	
ヒタキ		キビタキ	●			
		オオルリ	●		NT	
		コサメビタキ	●		DD	
ツリスガラ		ツリスガラ	●		NT	
サンショウクイ		サンショウクイ	●	VU	CR	
ツグミ	クロツグミ	●		NT		
ハト	ハト	アオバト	●			専門家の指摘*1
アビ	アビ	シロエリオオハム	●		NT	
ツル	クイナ	クイナ	●		NT	

注)出典:福岡市環境配慮指針(改定版)(平成 28 年 9 月)

カテゴリー:

環境省 RDB:レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 2 鳥類(2014 年 9 月)

CR:絶滅危惧 I A 類(ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの)

EN:絶滅危惧 I B 類(I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)

VU:絶滅危惧 II 類(絶滅の危険が増大している種)

NT:準絶滅危惧(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

DD:情報不足(評価するだけの情報が不足している種)

福岡県 RDB:福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011-植物群落・植物・哺乳類・鳥類-(平成 23 年 11 月)

CR:絶滅危惧 I A 類(ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの)

EN:絶滅危惧 I B 類(I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)

VU:絶滅危惧 II 類(絶滅の危険が増大している種)

NT:準絶滅危惧(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

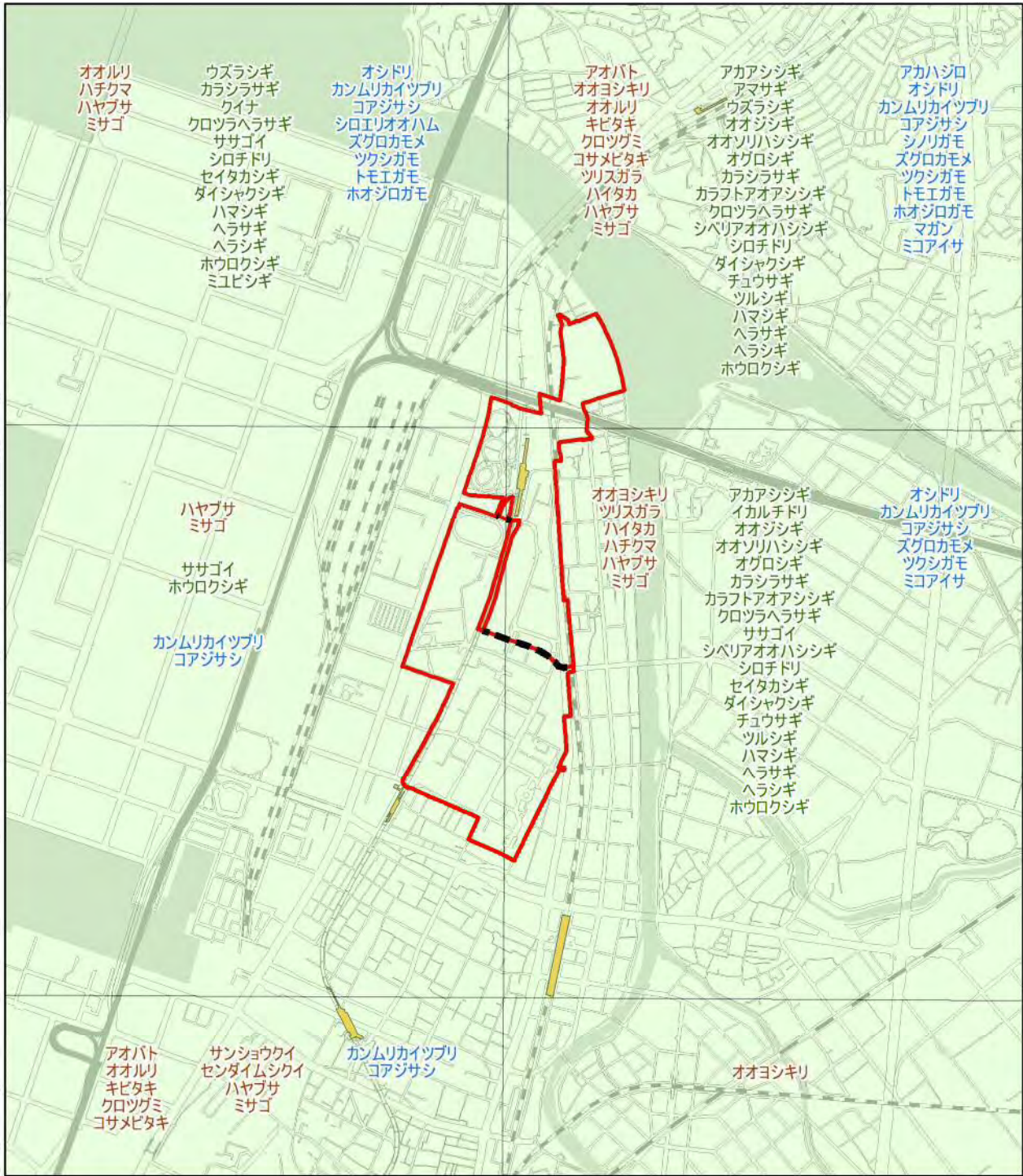
DD:情報不足(評価するだけの情報が不足している種)

その他の指定状況:天然記念物・種の保存法等の指定状況、専門家の指摘

天然記念物:「文化財保護法」及び「文化財保護条例」により、保護されている種及び亜種

種の保存法:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において、国内希少野生動植物種、国際希少野生動植物種に該当する種及び亜種

専門家の指摘*1 福岡市では確認されることが少なくなった種



凡例

- 事業実施区域
- 北エリア・南エリア境界
- 福岡都市高速
- 駅
- JR
- 新幹線
- 私鉄
- 地下鉄

- 種名：陸鳥
- 種名：水辺鳥
- 種名：水鳥

出典：福岡市環境配慮指針(改定版)(平成 28 年 9 月、福岡市)

図 8.9-2 貴重・希少生物の確認状況(鳥類)

d) 昆虫類

事業実施区域及びその周囲における昆虫類の貴重・希少生物の確認状況は、表 8.9-12 及び図 8.9-3 に示すとおりである。

事業実施区域及びその周囲において確認されている貴重・希少生物は、ベニイトトンボ、アオヤンマの 2 種である。

表 8.9-12 事業実施区域及びその周囲の貴重・希少生物(昆虫類)

目	科	種名	福岡市 環境配 慮指針	カテゴリー		
				環境省 RDB	福岡県 RDB	その他の指定状況
トンボ	イトトンボ	ベニイトトンボ	●	NT		
	ヤンマ	アオヤンマ	●	NT	VU	

注)出典:福岡市環境配慮指針(改定版)(平成 28 年 9 月)

カテゴリー:

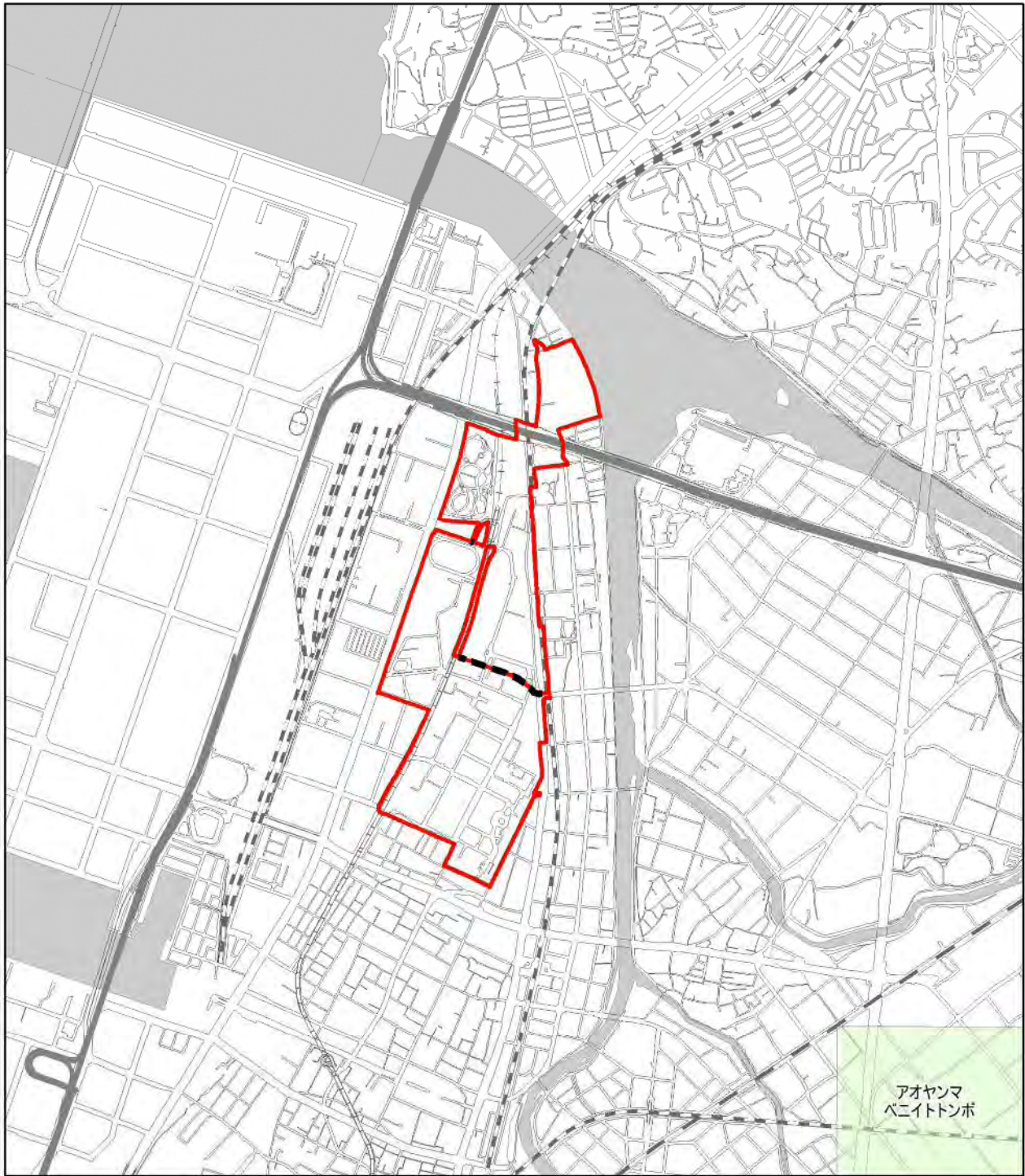
環境省 RDB:レッドデータブック 2014 ー日本の絶滅のおそれのある野生生物ー 5 昆虫類 (2015 年 2 月)

NT:準絶滅危惧(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

福岡県 RDB:福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014ー爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等ー(平成 26 年 8 月)

VU:絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)

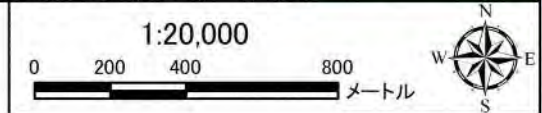
その他の指定状況:天然記念物・種の保存法等の指定状況、専門家の指摘



凡 例

- 事業実施区域
- 北エリア・南エリア境界

- 福岡都市高速
- JR
- 新幹線
- 私鉄
- 地下鉄



出典：福岡市環境配慮指針(改定版)(平成 28 年 9 月、福岡市)

図 8.9-3 貴重・希少生物の確認状況(昆虫類)

e) 魚 類

事業実施区域及びその周囲における魚類の貴重・希少生物の確認状況は、表 8.9-13 及び図 8.9-4 に示すとおりである。

事業実施区域及びその周囲において確認されている貴重・希少生物は、アユ、エドハゼ、シロウオ、ヒモハゼ、チワラスボ、トビハゼ、マサゴハゼ、ミナミメダカの 8 種である。

表 8.9-13 事業実施区域及びその周囲の貴重・希少生物(魚類)

目	科	種名	福岡市 環境配 慮指針	カテゴリー		
				環境省 RDB	福岡県 RDB	その他の 指定状況
サケ	アユ	アユ	●		NT	
スズキ	ハゼ	エドハゼ	●	VU	VU	
		シロウオ	●	VU	NT	
		チワラスボ	●	EN	VU	
		トビハゼ	●	NT	VU	
		ヒモハゼ	●	NT	NT	
		マサゴハゼ	●	VU	NT	
ダツ	メダカ	ミナミメダカ	●	VU	NT	

注)出典:福岡市環境配慮指針(改定版)(平成 28 年 9 月)

カテゴリー:

環境省 RDB:「レッドデータブック 2014ー日本の絶滅のおそれのある野生生物ー4 汽水・淡水魚類」(平成 27 年 2 月 環境省)

EN:絶滅危惧 I B 類(I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)

VU:絶滅危惧 II 類(絶滅の危険が増大している種)

NT:準絶滅危惧(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

福岡県 RDB:「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成 26 年 8 月 福岡県)

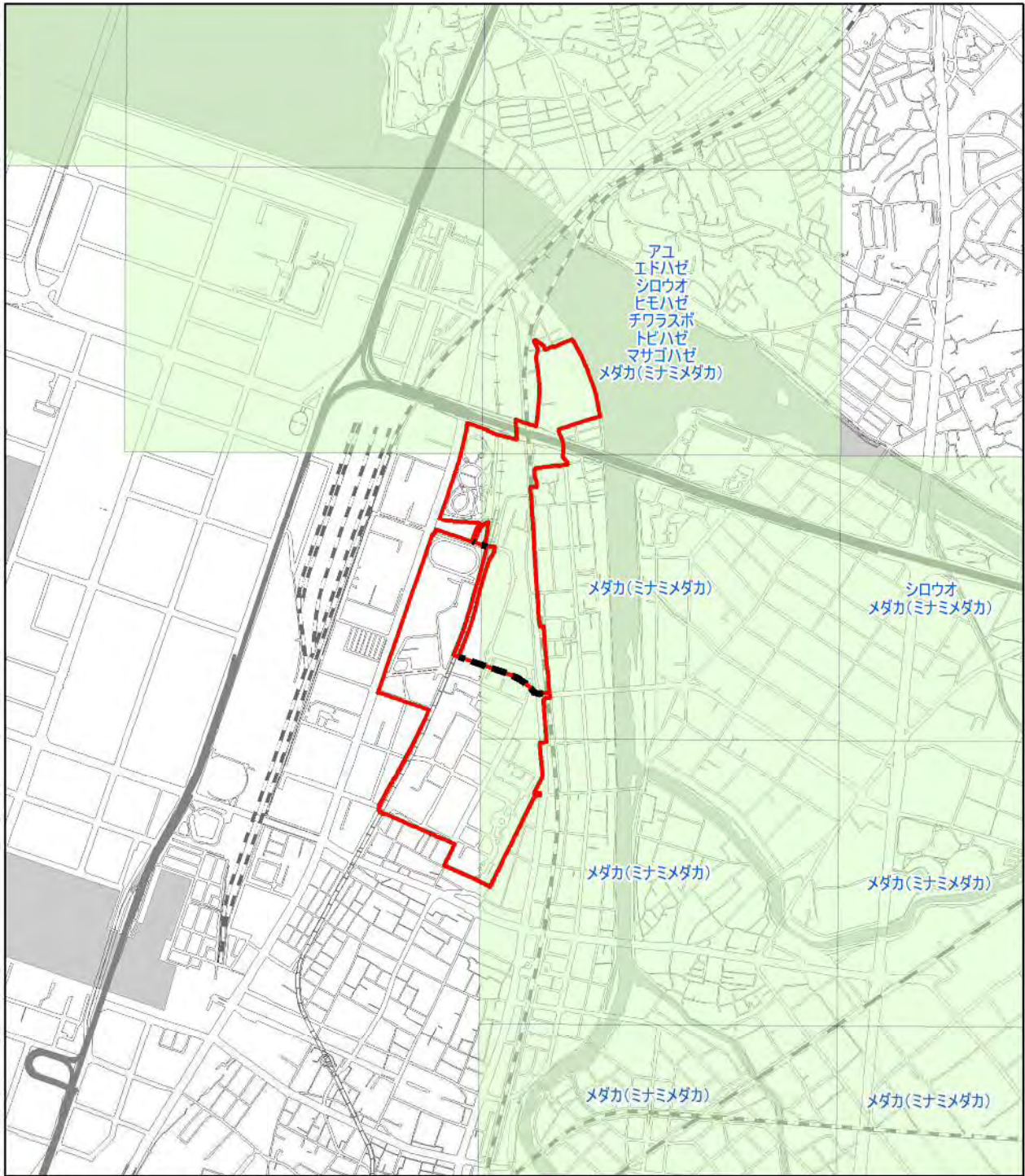
VU:絶滅危惧 II 類(絶滅の危険が増大している種)

NT:準絶滅危惧(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

その他の指定状況:天然記念物・種の保存法等の指定状況、専門家の指摘

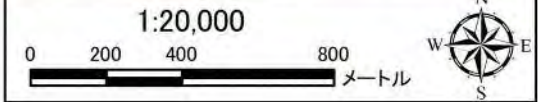
天然記念物:「文化財保護法」及び「文化財保護条例」により、保護されている種及び亜種

種の保存法:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において、国内希少野生動植物種、国際希少野生動植物種に該当する種及び亜種



- 凡 例
- 事業実施区域
 - 北エリア・南エリア境界

- 福岡都市高速
- JR
- 新幹線
- 私鉄
- 地下鉄



出典:福岡市環境配慮指針(改定版)(平成28年9月、福岡市)
平成30年6月確認

図 8.9-4 貴重・希少生物の確認状況(魚類)

f) 貝類、甲殻類その他

事業実施区域及びその周囲における貝類、甲殻類その他の貴重・希少生物の確認状況は、表 8.9-14~15 及び図 8.9-5 に示すとおりである。

事業実施区域及びその周囲において確認されている貴重・希少生物は、貝類はヒロクチカノコ、ウミニナ、クリイロカワザンショウ、ワカウラツボ、オカミミガイ、テリザクラ、ウネナシトマヤガイの 7 種である。

また、甲殻類その他は、アリアケガニ、ウモレベンケイガニ、ベンケイガニ、クシテガニ、オサガニ、ハクセンシオマネキ、ハマガニ、ヒメアシハラガニの 8 種である。

表 8.9-14 事業実施区域及びその周囲の貴重・希少生物(貝類)

目	科	種名	福岡市 環境配 慮指針	カテゴリー		
				環境省 RDB	福岡県 RDB	その他の 指定状況
アマオブネガイ	アマオブネガイ	ヒロクチカノコ	●	NT	VU	
新生腹足	ウミニナ	ウミニナ	●	NT	NT	
	カワザンショウ	クリイロカワザンショウ	●	NT	NT	
	ワカウラツボ	ワカウラツボ	●	VU	NT	
異鰓	オカミミガイ	オカミミガイ	●	VU	VU	
ザルガイ	ニッコウガイ	テリザクラ	●	VU	VU	
マルスタレガイ	フナガタガイ	ウネナシトマヤガイ	●	NT		

注)出典：福岡市環境配慮指針(改定版)(平成 28 年 9 月)

カテゴリー：

環境省 RDB:レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物 - 6 貝類 (2014 年 9 月)

VU:絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)

NT:準絶滅危惧(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

福岡県 RDB:福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014-爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等 (平成 26 年 8 月)

VU:絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)

NT:準絶滅危惧(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

その他の指定状況:天然記念物・種の保存法等の指定状況、専門家の指摘

表 8.9-15 事業実施区域及びその周囲の貴重・希少生物(甲殻類その他)

目	科	種名	福岡市 環境配 慮指針	カテゴリー		
				環境省 RDB	福岡県 RDB	その他の 指定状況
十脚	アリアケガニ	アリアケガニ	●		EN	
	ベンケイガニ	ウモレベンケイガニ	●		VU	
		ベンケイガニ	●		NT	
		クシテガニ	●		NT	
	オサガニ	オサガニ	●		NT	
	スナガニ	ハクセンシオマネキ	●	VU	VU	
	モクズガニ	ハマガニ	●		NT	
		ヒメアシハラガニ	●		NT	

注)出典：福岡市環境配慮指針(改定版)(平成 28 年 9 月)

カテゴリー：

環境省 RDB:レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物 - 7 甲殻類その他 (2014 年 9 月)

VU:絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)

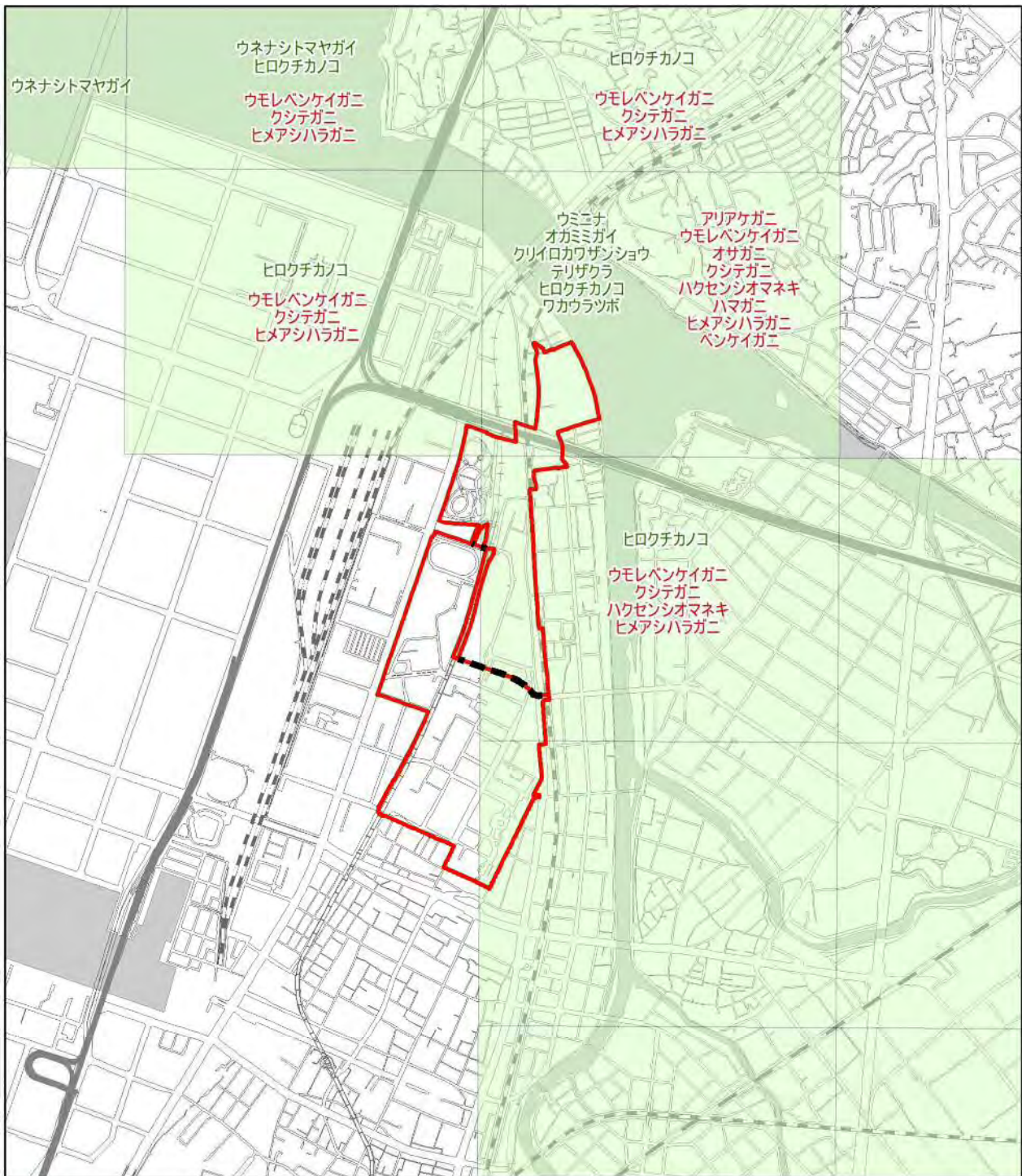
福岡県 RDB:福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014-爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等 (平成 26 年 8 月)

EN:絶滅危惧ⅠB類(ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)

VU:絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)

NT:準絶滅危惧(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

その他の指定状況:天然記念物・種の保存法等の指定状況、専門家の指摘



凡 例

■ 事業実施区域

--- 北エリア・南エリア境界

— 福岡都市高速

— JR

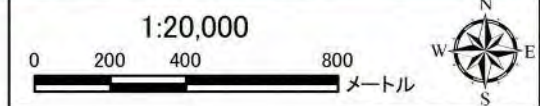
— 新幹線

— 私鉄

— 地下鉄

種名：貝類

種名：甲殻類



出典：福岡市環境配慮指針(改定版)(平成 28 年 9 月、福岡市)

図 8.9-5 貴重・希少生物の確認状況(貝類、甲殻類その他)

2) 現地調査結果

a) 哺乳類

① 確認種

4季の現地調査により、2目2科3種が確認された。表 8.9-16 に確認種および確認内容を示す。

アブラコウモリは夜間調査において、バットディテクターによるエコーロケーションパルスの確認及び飛行個体の撮影により確認された。タヌキは多々良川・宇美川合流部、及び、大学構内の自動撮影により撮影され、河川合流部では足跡も確認された。

チョウセンイタチは冬季に農学部貯水槽から獣の死体が確認され、計測値(頭胴長 410mm、尾長 210mm)及び採取された体毛の DNA 分析からチョウセンイタチと判定した。調査地の数ヶ所で採取されたイタチ類と見られる糞は、DNA 分析の結果、チョウセンイタチと判定された。事業実施区域内のイタチ属は、糞や体毛の DNA 分析結果より、チョウセンイタチであると考えられる。



表 8.9-16 確認種

No.	目名	科名	種名(推定種名)	夏季	秋季	冬季	春季	確認内容
1	コウモリ	ヒナコウモリ	アブラコウモリ	○	○		○	バットディテクター・目撃
2	ネコ	イヌ	タヌキ	○			○	撮影、足跡
3			チョウセンイタチ	○	○	○	○	死骸・糞(DNA分析) 撮影・足跡(大学構内のみ)
2目2科3種				3種	2種	1種	3種	

注1) 種の分類および配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト～平成29年度版～」(水情報国土データ管理センター、2017年)に基本的に従った。

事業実施区域及びその周囲で確認された中型の哺乳類はタヌキ、チョウセンイタチ、小型種はアブラコウモリの合計3種であった。事業実施区域及びその周囲は、都市域としての利用が長く、モグラ目、ネズミ目在来種など小型哺乳類が確認されず、優勢な上位種は移入種チョウセンイタチという構成であった。

② 重要な種

哺乳類の重要な種は、表 8.9-17 に示す選定基準のいずれかに該当するものを選定・整理した。

選定基準による選定の結果、本調査では重要な種に該当する哺乳類はみられなかった。

表 8.9-17 重要な種(哺乳類)の選定基準

選定根拠			カテゴリー	
区分	略	名 称	記号	区 分
重 要 な 種	文化財	「文化財保護法」 (昭和 25 年 5 月 30 日 法律第 214 号)	特天	特別天然記念物指定種
			国天	天然記念物指定種
			「福岡県文化財保護条例」 (昭和 30 年福岡県条例第 25 号)	県天
	種保存	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の 保存に関する法律」 (平成 4 年 6 月 法律第 75 号)	国内	国内希少野生動植物種
			国際	国際希少野生動植物種
			緊急	緊急指定種
	環境省	「レッドリスト 2018」 (平成 30 年 5 月 環境省)	EX	絶滅
			EW	野生絶滅
			CR	絶滅危惧 I A 類
			EN	絶滅危惧 I B 類
			VU	絶滅危惧 II 類
			NT	準絶滅危惧
			DD	情報不足
			LP	絶滅のおそれのある地域個体群
	福岡県	「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデ ータブック 2011-植物群落・植物・哺乳 類・鳥類-」 (平成 23 年 11 月 福岡県)	EX	絶滅
			EW	野生絶滅
			CR	絶滅危惧 I A 類
EN			絶滅危惧 I B 類	
VU			絶滅危惧 II 類	
NT			準絶滅危惧	
DD			情報不足	
LP			絶滅のおそれのある地域個体群	
福岡市	「福岡市環境配慮指針(改定版)」 (平成 28 年 9 月 福岡市)	掲載種	市内の貴重・希少生物種等のリスト掲 載種	

③ 注目すべき生息地

哺乳類の注目すべき生息地は、事業実施区域及びその周囲には分布していなかった。

b) 鳥 類

① 確認種

5回の現地調査により、12目33科94種が確認された。表8.9-18に渡り生活型別(候鳥区分)の確認種数を示し、表8.9-19(1)～(2)に確認種リスト、表8.9-20(1)～(10)にラインセンサス等の集計を示す。リストは、亜種ホオジロハクセキレイを含み、家禽系統のドバト(種はカワラバト)、アイガモ(種はマガモ)は、種数と生活型の集計から除外した。

現地調査は、夏季(繁殖期後期)(6月27～30日)、秋の渡り(9月24～28日)、越冬期(1月22～25日)、春の渡り(4月23～25日)、繁殖期前期(5月21～23日)に実施し、確認種を整理した。

確認種のうち、トキ類、サギ類、カモ類、シギ類(ヤマシギ除く)、カモメ類は、多々良川で確認されたものである。また、河口利用規模の全体像をとらえるため、生態系調査で踏査した多々良川河口(名島地区)で確認されたホオジロガモ、スズガモもリストに含めている。以下に確認状況をまとめる。

表 8.9-18 生活型別の確認種数

生活型	種数	種名(陸生)	種名(水辺)
留鳥	35種 (37.2%)	ミサゴ○、トビ●、ハヤブサ○、キジバト●、カワセミ、コゲラ○、ヒバリ○、イワツバメ●、ハクセキレイ○、セグロセキレイ○、ヒヨドリ○、モズ○、イソヒヨドリ●、ウグイス、セッカ○、エナガ○、ヤマガラ○、シジュウカラ●、メジロ○、カワラヒワ●、イカル、スズメ●、ムクドリ●、カササギ○、ハシボソガラス○、ハシブトガラス●	カイツブリ、カワウ○、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ○、カルガモ、ウミネコ、オオバン
夏鳥	15種 (16.0%)	ハチクマ、ツツドリ、ツバメ○、コシアカツバメ、サンショウクイ、ヤブサメ、オオヨシキリ○、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ	ササゴイ○、アマサギ、チュウサギ、コチドリ○、コアジサシ○(潜在的な繁殖地)
冬鳥	33種 (35.1%)	ハイタカ、ヤマシギ、ジョウビタキ、アカハラ(多くは旅鳥)、シロハラ、ツグミ、キクイタダキ、ツリスガラ、アオジ、オオジュリン、アトリ	カンムリカイツブリ、ヘラサギ、クロツラヘラサギ、ツクシガモ、マガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、ウミアイサ、ユリカモメ、セグロカモメ、カモメ、(ヤマシギは陸生に整理)ハマシギ、アオアシシギ、ホイグリーンカモメ
旅鳥	11種 (11.7%)	ホオジロハクセキレイ、ノビタキ、エゾムシクイ、オオムシクイ、エゾビタキ、コサメビタキ	キアシシギ、イソシギ、ソリハシシギ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ

凡例)●:調査地で繁殖しているとみられる種、○:調査地周辺で繁殖している可能性がある種
注)冬鳥として整理しているアカハラは、箱崎地区では旅鳥としての利用が多かった。

表 8.9-19(1) 確認種リスト

No.	目名	科名	種名	生活型	繁殖期 後期	秋の 渡り	越冬期	春の 渡り	繁殖期 前期		
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	留鳥			○				
2			カヌムリカイツブリ	冬鳥		○	○				
3	ペリカン	ウ	カワウ	留鳥	○	○	○	○	○		
4	コウノトリ	サギ	ゴイサギ	留鳥		○					
5			ササゴイ	夏鳥	○			○	○		
6			アマサギ	夏鳥					○	○	
7			ダイサギ	留鳥	○	○			○	○	
8			チュウサギ	夏鳥	○						
9			コサギ	留鳥		○	○	○	○		
10			アオサギ	留鳥	○	○	○	○	○	○	
11			トキ	ヘラサギ	冬鳥		○	○	○	○	
12				クロツラヘラサギ	冬鳥		○	○	○	○	
13			カモ	カモ	ツクシガモ	冬鳥			○		
14		マガモ			冬鳥		○	○	○		
-	マガモ(アイガモ)				○					○	
15	カルガモ	留鳥				○	○	○	○		
16	コガモ	冬鳥				○	○	○	○		
17	ヨシガモ	冬鳥				○					
18	オカヨシガモ	冬鳥				○	○	○	○		
19	ヒドリガモ	冬鳥				○	○	○	○		
20	オナガガモ	冬鳥						○			
21	ハシビロガモ	冬鳥					○				
22	ホシハジロ	冬鳥					○	○			
23	キンクロハジロ	冬鳥					○	○	○		
24	スズガモ	冬鳥						○			
25	ホオジロガモ	冬鳥						○			
26	ウミアイサ	冬鳥				○					
27	タカ	タカ	ミサゴ	留鳥	○	○	○	○	○		
28			ハチクマ	夏鳥		○					
29			トビ	留鳥	○	○	○	○	○		
30			ハイタカ	冬鳥		○					
31			ハヤブサ	留鳥		○	○				
32	ツル	クイナ	オオバン	留鳥		○					
33	チドリ	チドリ	コチドリ	夏鳥				○	○		
34			シギ	ハマシギ	冬鳥		○	○	○	○	
35				アオアシシギ	冬鳥		○	○	○	○	
36				キアシシギ	旅鳥	○	○	○	○	○	
37				イソシギ	旅鳥		○	○	○	○	
38				ソリハシシギ	旅鳥				○	○	
39				オオソリハシシギ	旅鳥		○				
40				チュウシャクシギ	旅鳥	○			○	○	
41				ヤマシギ	冬鳥		○	○			
42				カモメ	ユリカモメ	冬鳥			○		
43					セグロカモメ	冬鳥		○	○	○	
44			カモメ		冬鳥			○			
45			ウミネコ		留鳥	○	○				
46			ホイグリンカモメ		冬鳥		○				
47			コアジサシ		夏鳥				○	○	
-	ハト	ハト	ドバト	(留鳥)	○	○	○	○	○		
48			キジバト	留鳥	○	○	○	○	○		

注 1)種の分類および配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト～平成 29 年度版～」(水情報国土データ管理センター、2017 年)に従った。

注 2)アイガモ、ドバトについては、家禽系統であるため、種数と生活型の集計から除外した。

表 8.9-19(2) 確認種リスト

No.	目名	科名	種名	生活型	繁殖期 後期	秋の 渡り	越冬期	春の 渡り	繁殖期 前期
49	カッコウ	カッコウ	ツツドリ	夏鳥		○			
50	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	留鳥	○			○	○
51	キツツキ	キツツキ	コゲラ	留鳥	○	○	○		
52	スズメ	ヒバリ	ヒバリ	留鳥				○	
53		ツバメ	ツバメ	夏鳥	○			○	○
54			コシアカツバメ	夏鳥					○
55			イワツバメ	留鳥	○			○	○
56		セキレイ	ホオジロハクセキレイ	旅鳥				○	
57			ハクセキレイ	留鳥	○	○	○	○	○
58			セグロセキレイ	留鳥	○				
59		サンショウクイ	サンショウクイ	夏鳥		○			
60		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	○	○	○	○	
61		モズ	モズ	留鳥		○			
62		ツグミ	ジョウビタキ	冬鳥		○	○		
63			ノビタキ	旅鳥		○			
64			イソヒヨドリ	留鳥	○	○		○	○
65			アカハラ	冬鳥				○	
66			シロハラ	冬鳥		○	○		
67			ツグミ	冬鳥			○	○	
-			ツグミ属	-				○	
68		ウグイス	ヤブサメ	夏鳥		○			
69			ウグイス	留鳥			○		
70			オオヨシキリ	夏鳥				○	○
71			エゾムシクイ	旅鳥		○		○	
72			センダイムシクイ	夏鳥		○		○	
73			オオムシクイ	旅鳥					○
-			メボソムシクイ上種	(旅鳥)	○	○			
74			ククイタダキ	冬鳥		○	○		
75			セッカ	留鳥					○
76		ヒタキ	キビタキ	夏鳥		○		○	
77			オオルリ	夏鳥		○			
78			エゾビタキ	旅鳥		○			
79			コサメビタキ	旅鳥		○		○	○
80		エナガ	エナガ	留鳥	○	○			
81		ツリスガラ	ツリスガラ	冬鳥		○		○	
82		シジュウカラ	ヤマガラ	留鳥	○			○	
83			シジュウカラ	留鳥	○	○	○	○	○
84		メジロ	メジロ	留鳥	○	○	○	○	
85		ホオジロ	アオジ	冬鳥			○		
86			オオジュリン	冬鳥		○	○		
87		アトリ	アトリ	冬鳥		○		○	
88			カワラヒワ	留鳥	○	○	○	○	○
89			イカル	留鳥			○		
90		ハタオリドリ	スズメ	留鳥	○	○	○	○	○
91		ムクドリ	ムクドリ	留鳥	○	○	○	○	○
92		カラス	カササギ	留鳥	○	○			
93			ハシボソガラス	留鳥	○	○	○	○	○
94			ハシブトガラス	留鳥	○	○	○	○	○
12目33科94種(亜種含む)					30種	64種	47種	50種	32種

注 1)種の分類および配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト～平成 29 年度版～」(水情報国土データ管理センター、2017 年)に従った。

注 2)アイガモ、ドバトについては、家禽系統であるため、種数と生活型の集計から除外した。

◇ 確認種概要

事業実施区域及びその周囲の特徴的な生息状況としては、森林性旅鳥、渡り性水鳥(シギ・チドリ類)、水鳥集団越冬(カモ類、カワウ、ヘラサギ類)などに多様性がみられ、他に、猛禽類のトビの営巣、ハヤブサやミサゴのほぼ四季を通じた利用、イワツバメの集団繁殖地(コロニー)がある。

生活型で最も多いのは、留鳥 35 種(37.2%)であり、次いで冬鳥 33 種(35.1%)で、ほぼ同数となっている。他は、夏鳥 15 種(16.0%)、旅鳥 11 種(11.7%)であった。

調査季節別では、繁殖期後期 30 種、秋の渡り 64 種、越冬期 47 種、春の渡り 50 種、繁殖期前期 32 種となり、暖地の低地環境(湿地含む)の一般的な特徴のとおり、繁殖期と越冬期では越冬期が種数は多かった。また、調査地は地理上渡り性鳥類の重要な中継地にあたる。特に、秋季は、10 月中旬以後に渡来する冬鳥なども含まれるため、64 種と調査回のうち最大となっていた。

ラインセンサス法による優占種は、開放環境では季節をとおり、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラスが多く、次いでカワラヒワ、冬季にはシロハラ、ツグミなどが比較的多く確認された。樹林環境では、冬季にはヒヨドリとメジロが比較的よくみられるが、越冬期以外では少なくなる。年間を通じ、シジュウカラの確認頻度が高いほか、渡り時期にはヒタキ類、ムシクイ類、冬季には、シロハラ、キクイタダキなどが樹林を利用している。事業実施区域内の樹林の利用は、春秋の旅鳥の比重が高かった。モズ、ウグイス、エナガ、コゲラなど疎林・森林の種、ヒバリ、セッカなどの草地性鳥類の生息は少なかった。

以下に、利用環境・種群別に生息状況を整理した。

◇ 繁殖する種

留鳥と夏鳥は九州北部地域で繁殖する生活型であるが、調査地を繁殖に利用しているとみられる種は以下の通りである。

陸生種でトビ(大学構内営巣)、キジバト(営巣)、イワツバメ(宇美川松島大橋に集団繁殖地)、イソヒヨドリ(住宅地等)、シジュウカラ(大学構内幼鳥)、カワラヒワ(貝塚公園等)、スズメ(幼鳥各所)、ムクドリ(餌運び)、ハシブトガラス(地蔵の森等大学構内)などとみられる。

◇ 事業実施区域(大学構内)及びその周囲の利用種

事業実施区域の利用頻度が高いのは、留鳥種群、渡り性の森林利用種で、事業実施区域内の樹林地を利用している。

留鳥では、ムクドリ、キジバト、カワラヒワ、ヒヨドリ、イカルなどが、エノキなどの沖積地在来種と緑地植栽樹(サクラなど)に依存している。秋季～冬季に群れを形成するムクドリ、イカルなどはエノキ、ムクノキ、クスノキ、ホルトノキなどの果実(落果含む)を利用していると考えられる。一方、藪状地や低木林の広がりには欠け、モズ、ウグイス、エナガなどは少なかった。

森林性旅鳥としては、ツツドリ、亜種サンショウクイ、ヤブサメ、エゾムシクイ、センダイムシクイ、メボソムシクイ上種、オオムシクイ、キビタキ、オオルリ、エゾビタキ、コサメビタキなど多様な種の利用がみられた。

◇ 越冬する湿地性鳥類

比較的規模の大きな群を形成するものに、カワウ、カモ類、サギ類、ウミネコがある。

種別の同時最大利用規模は、秋に最大になるカワウが71個体、聞き取りで2017年度の最大は約20個体との情報が得られたクロツラヘラサギ(調査では最大16個体)、ヘラサギ1個体(聞き取りでは今季最大6個体)、サギ類は、アオサギ31個体(秋季)、ダイサギ7個体、渡り時にゴイサギ12個体、コサギ2個体などとなる。カモ類は、セグロカモメ12個体、ウミネコ40個体、ユリカモメ43個体、カモメ5個体、ホイグリンカモメ1個体、他、カンムリカイツブリ1個体、カイツブリ2個体(冬季移動時一時的)、オオバン3個体(晩秋)が確認された。セグロカモメ種群は、ニシセグロカモメ(ホイグリンカモメ)1個体(秋季)とみられるものが、越冬期でもタイミルセグロカモメ(ロシア西部の両種(セグロカモメとホイグリンカモメ)の交雑個体群)が5個体中4個体など高い比率で混じっていた。

なお、ラインセンサス等の季節ごとの任意調査は、累計のため、数字は最大数ではないことがある。

カモ類は、ヒドリガモ、キンクロハジロ、ホシハジロが優勢で、鉄道架橋上流側での越冬期の群れの規模は600~1000個体程度が確認された。各種の最大数は、優勢な順に、キンクロハジロ(730個体)、ホシハジロ(240個体)、ヒドリガモ(75個体)、カルガモ(60個体)、コガモ(60個体)、オカヨシガモ(37個体)、オナガガモ(28個体)、マガモ(23個体)、ヨシガモ(1個体)、ハシビロガモ(1個体)、ウミアイサ(4個体)、ツクシガモ(3個体)、河口鉄道架橋下流側にスズガモ(120個体、少数は架橋上流にも入る)、ホオジロガモ(8個体)であった。

◇ 渡り性水鳥

主な干潟利用種と同時最大利用規模は、キアシシギ(8月下旬に14個体以上、春季は名島地区を合わせ約30個体)、ハマシギ(90個体、多くは多々良川河口を利用)、ソリハシシギ(3個体)、チュウシャクシギ(3個体)、アオアシシギ(3個体)、オオソリハシシギ(1個体)、コチドリ(2個体)、イソシギ(4個体)であった。

シギ・チドリ類の渡来地として、多々良川の干潟は、博多湾東部湾奥のなかでも重要な環境であった。確認された種は8種(ヤマシギ除く)で、最大個体数は、河口の名島地区を含めた多々良川河口エリアで最大100個体程度であった。

水鳥のうち、カワウ、アオサギは環境適応能力の高い種である。

◇ 河口やヨシ原周辺などの生息種

流程や立地から、河口やヨシ原周辺が本来典型的な生息域と思われる鳥類として、夏鳥のコアシサシ(2個体)、ササゴイ(2個体)、オオヨシキリ(2個体)、冬鳥のオオジュリン(2個体)、ツリスガラ(5個体)、ヤマシギ(秋~冬)などが本調査で確認された。ヨシ原で繁殖するオオヨシキリ、オオジュリン、ツリスガラ、ヤマシギは、ヨシ原と後背疎林・藪状地にみられた。また、コアシサシは、名島内湾域で確認された。

◇ 猛禽類

猛禽類は、ミサゴ、ハヤブサ、ハチクマ、トビが確認された。トビは、大学構内のマツで営巣し、海岸では典型的な上位種である。ミサゴ、ハヤブサは調査地及び周辺の利用頻度が高い。

ミサゴは冬季を中心に最大3個体以上が利用し、多々良川の利用頻度は高く、重要な狩場となっている。繁殖期にも1個体程度が残ることがあるが、調査地と隣接地区には営巣地は確認されなかった。

ハヤブサは成鳥が確認された。本調査では繁殖地は確認されなかった。



大学構内におけるトビの営巣(抱卵)2018/5/9

表 8.9-20(1) ラインセンス等集計

No.	目名	科名	種名	繁殖後期												任意		
				L-1		L-2		L-3		P-1		P-2		P-3			P-4	
				回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数		回数	個体数
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ															
2			カンムリカイツブリ															
3	ペリカン	ウ	カワウ	1	1	3	8	2	4					4	5	4	8	9
4	コウノトリ	サギ	ゴイサギ															
5			ササゴイ					1	1									1
6			アマサギ															
7			ダイサギ			1	1	2	7				2	3	1	1		
8			チュウサギ					1	3									
9			コサギ															
10			アオサギ			2	5	2	4				3	3	1	2	6	
11		トキ	ヘラサギ															
12			クロツラヘラサギ															
13	カモ	カモ	ツクシガモ															
14			マガモ															
-			マガモ(アイガモ)				1	2										
15			カルガモ															
16			コガモ															
17			ヨシガモ															
18			オカヨシガモ															
19			ヒドリガモ															
20			オナガガモ															
21			ハシビロガモ															
22			ホシハジロ															
23			キンクロハジロ															
24			スズガモ															
25			ホオジロガモ															
26			ウミアイサ															
27	タカ	タカ	ミサゴ				1	1										2
28			ハチクマ															
29			トビ	1	1	2	2			1	1		1	1	1	1		
30			ハイタカ															
31		ハヤブサ	ハヤブサ															
32	ツル	クイナ	オオバン															
33	チドリ	チドリ	コチドリ															
34		シギ	ハマシギ															
35			アオアシシギ															
36			キアシシギ															14
37			イソシギ															
38			ソリハシシギ															
39			オオソリハシシギ															
40			チュウシャクシギ															1
41			ヤマシギ															
42		カモメ	ユリカモメ															
43			セグロカモメ															
44			カモメ															
45			ウミネコ															25
46			ホイグリンカモメ															
47			コアジサシ															
-	ハト	ハト	ドバト	1	8	1	35	2	57			1	1	1	40	2	63	
48			キジバト	3	3			2	3			1	1					1

注 1)種の分類および配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト～平成 29 年度版～」(水情報国土データ管理センター、2017 年)に従った。

注 2)アイガモ、ドバトについては、家禽系統であるため、種数と生活型の集計から除外した。

表 8.9-20(2) ラインセンス等集計

No.	目名	科名	種名	繁殖後期												任意			
				L-1		L-2		L-3		P-1		P-2		P-3			P-4		
				回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数		回数	個体数	
49	カッコウ	カッコウ	ツツドリ																
50	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ															2	
51	キツツキ	キツツキ	コゲラ	1	1	1	1	1	1							1	1		
52	スズメ	ヒバリ	ヒバリ																
53		ツバメ	ツバメ	2	3			2	4	1	1					1	4	3	
54			コシアカツバメ																
55			イワツバメ				3	28	1	5									
56		セキレイ	ホオジロハクセキレイ																
57			ハクセキレイ													1	1		
58			セグロセキレイ	1	1	1	1												1
59		サンショウクイ	サンショウクイ																
60		ヒヨドリ	ヒヨドリ																4
61		モズ	モズ																
62	ツグミ	ジョウビタキ																	
63		ノビタキ																	
64		イソヒヨドリ			1	2													
65		アカハラ																	
66		シロハラ																	
67		ツグミ																	
-			ツグミ属																
68		ウグイス	ヤブサメ																
69			ウグイス																
70			オオヨシキリ																
71	エゾムシクイ																		
72	センダイムシクイ																		
73	オオムシクイ																		
-			メボソムシクイ上種																2
74			ククイタダキ																
75		セツカ																	
76	ヒタキ	キビタキ																	
77		オオルリ																	
78		エソビタキ																	
79		コサメビタキ																	
80	エナガ	エナガ																2	
81	ツリスガラ	ツリスガラ																	
82	シジュウカラ	ヤマガラ													1	1			
83		シジュウカラ	4	5	1	1			1	2	1	1			1	1			
84	メジロ	メジロ													1	2		4	
85	ホオジロ	アオジ																	
86		オオジュリン																	
87	アトリ	アトリ																	
88		カワラヒワ	2	2	1	2	1	1	1	1	1	2							
89		イカル																	
90	ハタオリドリ	スズメ	15	58	8	37	14	57	1	4	2	6	1	2	1	5		73	
91	ムクドリ	ムクドリ	6	51	3	9	5	21	1	1	3	48	1	3	1			4	
92	カラス	カササギ			1	1													
93		ハシボソガラス	2	5	1	1	3	3					1	1	3			5	
94		ハシブトガラス	4	10			3	6	1	2	1	2	1	3	1			12	1
12目33科94種(亜種含む)				12種	14種	15種	7種	6種	8種	14種	17種								

注 1)種の分類および配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト～平成 29 年度版～」(水情報国土データ管理センター、2017 年)に従った。

注 2)アイガモ、ドバトについては、家禽系統であるため、種数と生活型の集計から除外した。

表 8.9-20(3) ラインセンス等集計

No.	目名	科名	種名	秋の渡り												任意		
				L-1		L-2		L-3		P-1		P-2		P-3			P-4	
				回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数		回数	個体数
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ															
2			カンムリカイツブリ														1	
3	ペリカン	ウ	カワウ			3	4						4	53	4	71	103	
4	コウノトリ	サギ	ゴイサギ														12	
5			ササゴイ															
6			アマサギ															
7			ダイサギ			3	4	2	3				1	1	1	1	4	
8			チュウサギ															
9			コサギ			2	2										2	
10			アオサギ			3	14	4	31				3	27	3	25	67	
11		トキ	ヘラサギ														2	
12			クロツラヘラサギ														33	
13	カモ	カモ	ツクシガモ															
14			マガモ				1	13									23	
-			マガモ(アイガモ)															
15			カルガモ				1	2							1	13	69	
16			コガモ			1	3						2	5			34	
17			ヨシガモ														1	
18			オカヨシガモ														14	
19			ヒドリガモ														165	
20			オナガガモ															
21			ハシビロガモ														1	
22			ホシハジロ														32	
23			キンクロハジロ														664	
24			スズガモ															
25			ホオジロガモ															
26			ウミアイサ															
27	タカ	タカ	ミスゴ			1	1						1	1	1	1	7	
28			ハチクマ	1	2										3	35		
29			トビ			1	1	3	3	1	1	2	3	2	4	1	7	
30			ハイタカ														1	
31		ハヤブサ	ハヤブサ													1	1	
32	ツル	クイナ	オオバン														3	
33	チドリ	チドリ	コチドリ															
34		シギ	ハマシギ				1	1										
35			アオアシシギ														1	
36			キアシシギ														1	
37			インシギ			3	4	2	3				3	3	1	1		
38			ソリハシシギ															
39			オオソリハシシギ										1	1	1	1	1	
40			チュウシャクシギ															
41			ヤマシギ														1	
42		カモメ	ユリカモメ															
43			セグロカモメ													1	1	
44			カモメ															
45			ウミネコ			3	43	8	42				4	26	3	10	85	
46			ホイグリソカモメ														1	
47			コアジサシ															
-	ハト	ハト	ドバト	2	11	4	52	1	58	1	40	1	2					
48			キジバト	4	5	2	2	1	2	1	2						2	

注 1)種の分類および配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト～平成 29 年度版～」(水情報国土データ管理センター、2017 年)に従った。

注 2)アイガモ、ドバトについては、家禽系統であるため、種数と生活型の集計から除外した。

表 8.9-20(4) ラインセンス等集計

No.	目名	科名	種名	秋の渡り												任意			
				L-1		L-2		L-3		P-1		P-2		P-3			P-4		
				回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数		回数	個体数	
49	カッコウ	カッコウ	ツツドリ																
50	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ						1	1									
51	キツツキ	キツツキ	コゲラ	1	1												2		
52	スズメ	ヒバリ	ヒバリ																
53		ツバメ	ツバメ																
54			コシアカツバメ																
55			イワツバメ																
56		セキレイ	ホオジロハクセキレイ																
57			ハクセキレイ	2	2	3	3	2	3				2	2	1	1			
58			セグロセキレイ																
59		サンショウクイ	サンショウクイ	1	1														
60		ヒヨドリ	ヒヨドリ	2	4											1	17	46	
61		モズ	モズ	1	1													1	
62	ツグミ	ジョウビタキ															2		
63		ノビタキ															1		
64		イソヒヨドリ	1	1	2	2	1	1	1	2			1	1	1	1	1		
65		アカハラ																	
66		シロハラ																1	
67		ツグミ																	
-			ツグミ属																
68		ウグイス	ヤブサメ	1	1													7	
69			ウグイス																
70			オオヨシキリ																
71	エゾムシクイ																	2	
72	センダイムシクイ								1	1								1	
73	オオムシクイ																		
-			メボソムシクイ上種	1	2														
74			キクイタダキ															5	
75		セツカ																	
76	ヒタキ	キビタキ	1	2				1	1								3		
77		オオルリ	1	2													2		
78		エソビタキ																4	
79		コサメビタキ	1	1			1	1			1	1						15	
80	エナガ	エナガ															4		
81	ツリスガラ	ツリスガラ															5		
82	シジュウカラ	ヤマガラ																	
83		シジュウカラ	4	5	1	1			1	1	1	1					10		
84	メジロ	メジロ															6		
85	ホオジロ	アオジ																	
86		オオジュリン															2		
87	アトリ	アトリ															4		
88		カワラヒワ	2	4			2	3									3		
89		イカル																	
90	ハタオリドリ	スズメ	9	156	8	57	5	23			1	5	1	1	1	6	60		
91	ムクドリ	ムクドリ	3	7	6	16	2	10	1	50							35		
92	カラス	カササギ	1	1	1	2											1		
93		ハシボソガラス	3	4	8	30	2	2			1	2			1	3			
94		ハシブトガラス	4	4	2	6	6	15	1	4	1	2	2	2				26	
12目33科94種(亜種含む)				20種	18種	17種	9種	6種	13種	17種	55種								

注 1)種の分類および配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト～平成 29 年度版～」(水情報国土データ管理センター、2017 年)に従った。

注 2)アイガモ、ドバトについては、家禽系統であるため、種数と生活型の集計から除外した。

表 8.9-20(5) ラインセンサス等集計

No.	目名	科名	種名	越冬期														
				L-1		L-2		L-3		P-1		P-2		P-3		P-4		任意
				回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ			1	2											
2			カンムリカイツブリ			1	1										1	
3	ペリカン	ウ	カワウ			4	18	1	8					1	8	1	1	5
4	コウノトリ	サギ	ゴイサギ															
5			ササゴイ															
6			アマサギ															
7			ダイサギ															
8			チュウサギ															
9			コサギ			1	1											
10			アオサギ			3	5	1	1					1	1			
11		トキ	ヘラサギ			1	1	1	1					1	1	1	1	
12			クロツラヘラサギ			1	8	1	9					1	11	1	12	
13	カモ	カモ	ツクシガモ			1	3									1	2	
14			マガモ					3	17					1	15			10
-			マガモ(アイガモ)															
15			カルガモ					3	60					1	12	1	4	30
16			コガモ			5	69	2	12					1	38			
17			ヨシガモ															
18			オカヨシガモ			1	20	1	37					1	12	2	9	13
19			ヒドリガモ			6	75	3	19					3	48	3	65	60
20			オナガガモ			1	20	1	28					1	35	1	22	
21			ハシビロガモ															
22			ホシハジロ			2	111	1	15					1	42	1	40	270
23			キンクロハジロ			3	730	2	375					2	685	5	507	
24			スズガモ															226
25			ホオジロガモ															22
26			ウミアイサ					2	3							1	3	6
27	タカ	タカ	ミサゴ			2	2	2	3					1	2	1	1	1
28			ハチクマ															
29			トビ			3	7	2	9					1	1	1	1	1
30			ハイタカ															
31		ハヤブサ	ハヤブサ											1	1			
32	ツル	クイナ	オオバン															
33	チドリ	チドリ	コチドリ															
34		シギ	ハマシギ			1	8											
35			アオアシシギ															
36			キアシシギ															
37			インシギ			3	4	2	2					2	2			
38			ソリハシシギ															
39			オオソリハシシギ															
40			チュウシャクシギ															
41			ヤマシギ					1	1									
42		カモメ	ユリカモメ			1	1											81
43			セグロカモメ			6	10	2	3					1	2			20
44			カモメ			1	1									1	1	5
45			ウミネコ															
46			ホイグリーンカモメ															
47			コアジサシ															
-	ハト	ハト	ドバト			3	27	1	20	1	45			1	12			
48			キジバト			2	4	1	1	2	2	1	2			1	1	5

注 1)種の分類および配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト～平成 29 年度版～」(水情報国土データ管理センター、2017 年)に従った。

注 2)アイガモ、ドバトについては、家禽系統であるため、種数と生活型の集計から除外した。

表 8.9-20(6) ラインセンス等集計

No.	目名	科名	種名	越冬期															
				L-1		L-2		L-3		P-1		P-2		P-3		P-4		任意	
				回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	個体数	
49	カッコウ	カッコウ	ツツドリ																
50	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ																
51	キツツキ	キツツキ	コゲラ														1		
52	スズメ	ヒバリ	ヒバリ																
53		ツバメ	ツバメ																
54			コシアカツバメ																
55			イワツバメ																
56		セキレイ	ホオジロハクセキレイ																
57			ハクセキレイ	5	6	7	9	2	2			1	2	2	3	1	1	2	
58			セグロセキレイ																
59		サンショウクイ	サンショウクイ																
60		ヒヨドリ	ヒヨドリ	13	35	3	6	1	2	2	6	2	5			1	1	8	
61		モズ	モズ																
62	ツグミ	ジョウビタキ	1	1			1	1			2	2							
63		ノビタキ																	
64		インヒヨドリ																	
65		アカハラ																	
66		シロハラ	9	10			1	1	1	4	3	3						4	
67		ツグミ	6	12	3	7	2	2			2	5				1	1	7	
-			ツグミ属																
68		ウグイス	ヤブサメ																
69			ウグイス	1	1														1
70			オオヨシキリ																
71	エゾムシクイ																		
72	センダイムシクイ																		
73	オオムシクイ																		
-			メボソムシクイ上種																
74			キクイタダキ															2	
75			セッカ																
76	ヒタキ		キビタキ																
77		オオルリ																	
78		エソビタキ																	
79		コサメビタキ																	
80	エナガ	エナガ																	
81	ツリスガラ	ツリスガラ																	
82	シジュウカラ	ヤマガラ																	
83		シジュウカラ							1	1	1	1					6		
84	メジロ	メジロ	6	13	1	4			1	1	2	4					8		
85	ホオジロ	アオジ					2	2										2	
86		オオジュリン					2	3											
87	アトリ	アトリ																	
88		カワラヒワ	1	1							1	2						2	
89		イカル	1	4														8	
90	ハタオリドリ	スズメ	4	6	2	7	3	10			1	20			1	5	45		
91	ムクドリ	ムクドリ	1	2	1	4	2	11							1	6	28		
92	カラス	カササギ																	
93		ハシボソガラス	3	5	6	16	3	8	1	1					1	3	1		
94		ハシブトガラス	2	5	1	1	4	6				1	3					1	
12目33科94種(亜種含む)				14種	30種	30種	6種	12種	17種	20種	32種								

注 1)種の分類および配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト～平成 29 年度版～」(水情報国土データ管理センター、2017 年)に従った。

注 2)アイガモ、ドバトについては、家禽系統であるため、種数と生活型の集計から除外した。

表 8.9-20(7) ラインセンサス等集計

No.	目名	科名	種名	春の渡り														
				L-1		L-2		L-3		P-1		P-2		P-3		P-4		任意
				回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ															
2			カンムリカイツブリ															
3	ペリカン	ウ	カワウ			8	15	4	22			1	1	2	9	1	11	20
4	コウノトリ	サギ	ゴイサギ															
5			ササゴイ															2
6			アマサギ															
7			ダイサギ					1	2					1	1	2	2	9
8			チュウサギ															
9			コサギ															1
10			アオサギ	1	1			1	1					3	3	1	2	2
11		トキ	ヘラサギ															1
12			クロツラヘラサギ															1
13	カモ	カモ	ツクシガモ															
14			マガモ			1	4	1	2							1	2	
-			マガモ(アイガモ)															
15			カルガモ										1	2				4
16			コガモ															1
17			ヨシガモ															
18			オカヨシガモ					1	2									2
19			ヒドリガモ			4	62	5	43					1	14	2	59	46
20			オナガガモ															
21			ハシビロガモ															
22			ホシハジロ															
23			キンクロハジロ			1	1						1	1				
24			スズガモ															
25			ホオジロガモ															
26			ウミアイサ															
27	タカ	タカ	ミサゴ					1	1					2	2	1	1	1
28			ハチクマ															
29			トビ	2	4	2	2	2	3			1	1			1	1	
30			ハイタカ															
31		ハヤブサ	ハヤブサ															
32	ツル	クイナ	オオバン															
33	チドリ	チドリ	コチドリ					1	2							1	1	2
34		シギ	ハマシギ															90
35			アオアシシギ															6
36			キアシシギ													1	1	12
37			インシギ			2	3	3	3				1	1				8
38			ソリハシシギ															3
39			オオソリハシシギ															
40			チュウシャクシギ													1	1	6
41			ヤマシギ															
42		カモメ	ユリカモメ															
43			セグロカモメ			1	1	1	2				1	1				
44			カモメ															
45			ウミネコ															
46			ホイグリンカモメ															
47			コアジサシ															2
-	ハト	ハト	ドバト			1	2	2	16			1	1			1	2	
48			キジバト	4	4							1	1					2

注 1)種の分類および配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト～平成 29 年度版～」(水情報国土データ管理センター、2017 年)に従った。

注 2)アイガモ、ドバトについては、家禽系統であるため、種数と生活型の集計から除外した。

表 8.9-20(8) ラインセンス等集計

No.	目名	科名	種名	春の渡り														
				L-1		L-2		L-3		P-1		P-2		P-3		P-4		任意
				回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	個体数
49	カッコウ	カッコウ	ツツドリ															
50	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ			1	1											
51	キツツキ	キツツキ	コゲラ															
52	スズメ	ヒバリ	ヒバリ													1		
53		ツバメ	ツバメ	1	1			1	1	1	2	1	3			2	3	
54			コシアカツバメ															
55			イワツバメ														25	
56		セキレイ	ホオジロハクセキレイ	1	1													
57			ハクセキレイ	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1			1	1	6
58			セグロセキレイ															
59		サンショウクイ	サンショウクイ															
60		ヒヨドリ	ヒヨドリ					1	22									2
61		モズ	モズ															
62		ツグミ	ジョウビタキ															
63			ノビタキ															
64			インヒヨドリ			1	1	1	1									
65			アカハラ	1	3													
66			シロハラ															
67			ツグミ	1	1						1	1						1
-			ツグミ属	1	3													5
68		ウグイス	ヤブサメ															
69			ウグイス															
70			オオヨシキリ					1	1							1	1	
71			エゾムシクイ	3	4													1
72			センダイムシクイ															1
73			オオムシクイ															
-			メボソムシクイ上種															
74			キクイタダキ															
75			セッカ															
76		ヒタキ	キビタキ	1	2					1	1	1	2					1
77			オオルリ															
78			エソビタキ															
79			コサメビタキ															1
80		エナガ	エナガ															
81		ツリスガラ	ツリスガラ															2
82		シジュウカラ	ヤマガラ													1	2	1
83			シジュウカラ	4	11			1	1	1	1			1	1	1	1	4
84		メジロ	メジロ	1	2													2
85		ホオジロ	アオジ															
86			オオジュリン															
87		アトリ	アトリ	1	4						1	6						15
88			カワラヒワ	5	8	1	1	1	1		1	4						
89			イカル															
90		ハタオリドリ	スズメ	4	12	12	30	9	40	1	2	1	8	1	4	1	4	8
91		ムクドリ	ムクドリ	2	11	4	12	3	7	1	4	1	1			1	6	16
92		カラス	カササギ															
93			ハシボソガラス	2	4	3	19	2	2					1	1	1	1	
94			ハシブトガラス	5	44	4	10	3	4	1	2	1	4	1	1			1
12目33科94種(亜種含む)				18種	15種	22種	8種	11種	13種	18種	39種							

注 1)種の分類および配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト～平成 29 年度版～」(水情報国土データ管理センター、2017 年)に従った。

注 2)アイガモ、ドバトについては、家禽系統であるため、種数と生活型の集計から除外した。

表 8.9-20(9) ラインセンサス等集計

No.	目名	科名	種名	繁殖前期												任意		
				L-1		L-2		L-3		P-1		P-2		P-3			P-4	
				回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数		回数	個体数
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ															
2			カンムリカイツブリ															
3	ペリカン	ウ	カワウ	2	4	5	5	3	13			1	1	2	3	5	17	5
4	コウノトリ	サギ	ゴイサギ															
5			ササゴイ			1	1											
6			アマサギ			1	4											
7			ダイサギ	1	1	3	3	3	4					1	2	2	2	
8			チュウサギ															
9			コサギ															
10			アオサギ			2	6	1	4					1	1	1	2	
11		トキ	ヘラサギ															
12			クロツラヘラサギ					1	6									
13	カモ	カモ	ツクシガモ															
14			マガモ															
-			マガモ(アイガモ)			1	2							1	1	1	1	
15			カルガモ															
16			コガモ															
17			ヨシガモ															
18			オカヨシガモ															
19			ヒドリガモ															
20			オナガガモ															
21			ハシビロガモ															
22			ホシハジロ															
23			キンクロハジロ															
24			スズガモ															
25			ホオジロガモ															
26			ウミアイサ															
27	タカ	タカ	ミサゴ			1	1							1	1			
28			ハチクマ															
29			トビ	1	1	1	2	1	1			1	1	1	1			
30			ハイタカ															
31		ハヤブサ	ハヤブサ															
32	ツル	クイナ	オオバン															
33	チドリ	チドリ	コチドリ													1	2	
34		シギ	ハマシギ															
35			アオアシシギ													1	1	
36			キアシシギ			3	6	2	10					1	14	2	14	18
37			イソシギ											1	1	1	1	
38			ソリハシシギ											1	3			
39			オオソリハシシギ															
40			チュウシャクシギ					1	1					1	1	1	5	
41			ヤマシギ															
42		カモメ	ユリカモメ															
43			セグロカモメ															
44			カモメ															
45			ウミネコ															
46			ホイグリーンカモメ															
47			コアジサシ															2
-	ハト	ハト	ドバト			3	14	2	9			1	1	1	1	1	4	
48			キジバト	3	4	1	2	1	1					1	1			

注 1)種の分類および配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト～平成 29 年度版～」(水情報国土データ管理センター、2017 年)に従った。

注 2)アイガモ、ドバトについては、家禽系統であるため、種数と生活型の集計から除外した。

表 8.9-20(10) ラインセンサス等集計

No.	目名	科名	種名	繁殖前期														
				L-1		L-2		L-3		P-1		P-2		P-3		P-4		任意
				回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	回数	個体数	
49	カッコウ	カッコウ	ツツドリ															
50	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ			1	1							1	1			
51	キツツキ	キツツキ	コゲラ															
52	スズメ	ヒバリ	ヒバリ															
53		ツバメ	ツバメ	1	2			1	2					1	1	1	1	
54			コシアカツバメ														1	
55			イワツバメ			1	20				1	1						
56		セキレイ	ホオジロハクセキレイ															
57			ハクセキレイ					2	2		1	1			1	1		
58			セグロセキレイ															
59		サンショウクイ	サンショウクイ															
60		ヒヨドリ	ヒヨドリ															
61		モズ	モズ															
62		ツグミ	ジョウビタキ															
63			ノビタキ															
64			インヒヨドリ			1	1											
65			アカハラ															
66			シロハラ															
67			ツグミ															
-			ツグミ属															
68		ウグイス	ヤブサメ															
69			ウグイス															
70			オオヨシキリ			2	2											
71			エゾムシクイ															
72			センダイムシクイ															
73			オオムシクイ	2	2												2	
-			メボソムシクイ上種															
74			ククイタダキ															
75			セッカ												1	1		
76		ヒタキ	キビタキ															
77			オオルリ															
78			エゾビタキ															
79			コサメビタキ					1	1									
80		エナガ	エナガ															
81		ツリスガラ	ツリスガラ															
82		シジュウカラ	ヤマガラ															
83			シジュウカラ	3	7				1	1	1	1						
84		メジロ	メジロ															
85		ホオジロ	アオジ															
86			オオジュリン															
87		アトリ	アトリ															
88			カワラヒワ	5	9			3	3	1	1	1	1					
89			イカル															
90		ハタオリドリ	スズメ	12	46	10	33	10	44	1	1	2	8	2	2	1	4	
91		ムクドリ	ムクドリ	2	3	3	5	6	11	1	2	1	8	1	1	1	2	
92		カラス	カササギ															
93			ハシボソガラス	3	4	4	5	3	10					1	1	1	1	
94			ハシブトガラス	3	34	2	4	2	4	1	2	1	4	1	1	2	7	
12目33科94種(亜種含む)				12種		17種		16種		5種		9種		16種		15種		5種

注 1)種の分類および配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト～平成 29 年度版～」(水情報国土データ管理センター、2017 年)に従った。

注 2)アイガモ、ドバトについては、家禽系統であるため、種数と生活型の集計から除外した。

② 重要な種

鳥類の重要な種は、表 8.9-21 に示す選定基準のいずれかに該当するものを選定・整理した。

重要な種の選定基準により、7 目 14 科 24 種が重要な種に選定された。表 8.9-22 に重要な種を示し、確認位置を図 8.9-6(1)～(5)に示す。

表 8.9-21 重要な種(鳥類)の選定基準

選定根拠			カテゴリー	
区分	略	名称	記号	区分
重 要 な 種	文化財	「文化財保護法」 (昭和25年5月30日 法律第214号)	特天	特別天然記念物指定種
			国天	天然記念物指定種
		「福岡県文化財保護条例」 (昭和30年福岡県条例第25号)	県天	天然記念物指定種
	種保存	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に 関する法律」 (平成4年6月 法律第75号)	国内	国内希少野生動植物種
			国際	国際希少野生動植物種
			緊急	緊急指定種
	環境省	「レッドリスト2018」 (平成30年5月 環境省)	EX	絶滅
			EW	野生絶滅
			CR	絶滅危惧ⅠA類
			EN	絶滅危惧ⅠB類
			VU	絶滅危惧Ⅱ類
			NT	準絶滅危惧
			DD	情報不足
			LP	絶滅のおそれのある地域個体群
	福岡県	「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011-植物群落・植物・哺乳類・鳥類」 (平成23年11月 福岡県)	EX	絶滅
			EW	野生絶滅
			CR	絶滅危惧ⅠA類
			EN	絶滅危惧ⅠB類
			VU	絶滅危惧Ⅱ類
			NT	準絶滅危惧
DD			情報不足	
LP			絶滅のおそれのある地域個体群	
福岡市	「福岡市環境配慮指針(改定版)」 (平成28年9月 福岡市)	掲載種	市内の貴重・希少生物種等のリスト掲載種	

表 8.9-22 重要な種

No.	目名	科名	種名	種保存	環境省	福岡県	福岡市	繁殖後期	秋の渡り	越冬期	春の渡り	繁殖前期
1	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ			NT	掲載種		○	○		
2	コウノトリ	サギ	ササゴイ			NT	掲載種	○			○	○
3			アマサギ			NT	掲載種					○
4			チュウサギ		NT	NT	掲載種	○				
5		トキ	ヘラサギ		DD	EN	掲載種		○	○	○	
6			クロツラヘラサギ		EN	EN	掲載種		○	○	○	○
7	カモ	カモ	ツクシガモ		VU	NT	掲載種			○		
8			ホオジロガモ			VU	掲載種			○		
9	タカ	タカ	ミサゴ		NT		掲載種	○	○	○	○	○
10			ハチクマ		NT	NT	掲載種		○			
11			ハイタカ		NT		掲載種		○			
12		ハヤブサ	ハヤブサ	国内	VU	VU	掲載種		○	○		
13	チドリ	シギ	ハマシギ		NT	NT	掲載種		○	○	○	
14			オオソリハシシギ		VU	NT	掲載種		○			
15		カモメ	コアジサシ		VU	VU	掲載種				○	○
16	カッコウ	カッコウ	ツツドリ			NT	掲載種		○			
17	スズメ	ツバメ	コシアカツバメ			NT	掲載種					○
18		サンショウクイ	サンショウクイ		VU	CR	掲載種		○			
19		ウグイス	オオヨシキリ			NT	掲載種				○	○
20			センダイムシクイ			VU	掲載種		○		○	
21			オオムシクイ		DD							○
22		ヒタキ	オオルリ			NT	掲載種		○			
23			コサメビタキ			DD	掲載種		○		○	○
24		ツリスガラ	ツリスガラ			NT	掲載種		○		○	
7目14科24種				1種	13種	21種	23種	3種	15種	8種	10種	9種

注1) 種保存は「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)、環境省は「レッドリスト2018」(環境省、2018年)、福岡県は「福岡県レッドデータブック2011(改訂版)」(福岡県、2011年)、福岡市は「福岡市環境配慮指針(改定版)」(福岡市環境局環境監理部環境調整課、2016年)を示す。



注2) カテゴリーの記号は以下を示す。

国内: 国内希少野生動植物種、国際: 国際希少野生動植物種

CR: 絶滅危惧IA類、EN: 絶滅危惧IB類、VU: 絶滅危惧II類、NT: 準絶滅危惧、LP: 絶滅のおそれのある地域個体群、DD: 情報不足

掲載種: 市内の貴重・希少生物種等のリスト掲載種

注3) 現地調査では、その他の重要な種の選定基準である「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)、「福岡県文化財保護条例」(昭和30年福岡県条例第25号)、に該当するものは確認されなかった。

	<p>カンムリカイツブリ 福岡県: 準絶滅危惧、福岡市: 掲載種</p> <p>全長 74cm で日本のカイツブリ類で最大。潜水して魚類などを捕食する冬鳥。県内では静かな海や河口などに渡来する。</p> <p>主な生息環境は埋立により減少し、1980年代には和白干潟前面海域では 1000 羽を越える群れが越冬していたが、埋立などにより 100 羽以下に激減した(福岡県 RDB2001)。</p> <p>10 月から越冬期にかけて、多々良川と宇美川との合流付近で 1 個体が目撃された。</p>
	<p>ササゴイ 福岡県: 準絶滅危惧、福岡市: 掲載種</p> <p>河川中下流を典型的渡来地とする夏鳥。水辺で低い姿勢で小魚を捕食する。河川に近い街路樹や公園樹林地での集団営巣が多い。</p> <p>筑後市、久留米市、南福岡雑餉隈、西区樋井川下流にコロニーが知られる。営巣環境、採餌環境ともに悪化している(福岡県 RDB2011)。</p> <p>4~7 月にかけて多々良川や宇美川護岸で採餌するものなどが目撃された。周辺住宅地での単独営巣などの可能性もある。単独ではカラスなどに襲われることがある。</p>

出典: 日本の鳥 550 水辺の鳥増補改訂版
(株式会社文一総合出版、
2009年5月30日、撮影者: 山形則男)



出典：日本の鳥 550 水辺の鳥増補改訂版
(株式会社文一総合出版、
2009年5月30日、撮影者：吉野俊幸)

アマサギ

福岡県：準絶滅危惧、福岡市：掲載種

暖地性・夏鳥の小型のサギ類。留鳥のダイサギなどよりやや遅れて繁殖する。耕作地や草地で昆虫やカエルなど小動物を捕食し、あまり水辺に依存しない。

サギ類の中では比較的個体数は多かったが近年著しく減少している。コロニー内での多種との競合関係、農耕地の減少などが原因として考えられる(福岡県 RDB2011)。

5月に市街地上を西から東方向へ移動する4個体が目撃されたのみであること、調査地には水田等の生息環境がないことから、調査地との結びつきは低い。



出典：日本の鳥 550 水辺の鳥増補改訂版
(株式会社文一総合出版、
2009年5月30日、撮影者：山形則男)

チュウサギ

環境省：準絶滅危惧、福岡県：準絶滅危惧、福岡市：掲載種

県内には夏鳥として渡来し、主に農耕地で見られる。他のサギ類とともに集団繁殖地(コロニー)を形成するが、本種の数はもともと少なく、サギのコロニーそのものが近年減少した。これはサギのコロニーが騒音、悪臭のため駆除の対象となることがあるためである(福岡県 RDB2011)。

6月に多々良川の中州付近から上流方向へ飛行する3個体が目撃されたのみであること、調査地には水田等の生息環境がないことから、調査地との結びつきは低い。



ヘラサギ、右はクロツラヘラサギ

ヘラサギ

環境省：情報不足、福岡県：絶滅危惧 IB 類、福岡市：掲載種

クロツラヘラサギよりやや大型で全長 86cm のトキ科の大形水鳥。冬鳥として渡来し、干潟や湿地で魚類や甲殻類を捕食する。

福岡市の瑞梅寺川河口や東部海域の埋立地に、クロツラヘラサギとともに毎年1～数羽が越冬する。しかし、河川改修や堆積土砂の浚渫などにより、ねぐらである中州の消失や給餌場の変化などが生じると、本種の越冬に重大な影響が生じる可能性がある(福岡県 RDB2011)。

10月～4月に、多々良川の島状ヨシ原や宇美川の干潟などで、クロツラヘラサギの群中に成鳥1個体が目撃された。



クロツラヘラサギ

環境省：絶滅危惧 IB 類、福岡県：絶滅危惧 IB 類、福岡市：掲載種

種の総個体数が 3,941 羽(2018年クロツラヘラサギ世界一斉個体数調査、日本クロツラヘラサギネットワーク・日本野鳥の会)の世界的希少鳥。

県内では博多湾内の河口や干潟をはじめとして、毎年越冬個体が確認され、個体数の増加傾向がうかがえる。しかし、河川改修や堆積土砂の浚渫などにより、ねぐらである中州の消失や給餌場の変化が生じると、本種の越冬に重大な影響が生じる可能性がある(福岡県 RDB2011)。

10月～5月に、多々良川と宇美川合流付近の干潟やヨシ原で採餌休息し、多々良川中州での休憩時間が長い。最大16個体が確認された。4月後半以降は漂行的で、移動個体が多いとみられ、冬季にはほとんど混じらない幼鳥がよく混じる。



ツクシガモ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類、福岡県：準絶滅危惧
福岡市：掲載種

干潟に特化した全長約 60cm のカモ類。有明海や曾根干潟で大群となる以外では多くない。

曾根干潟、和白干潟は本種の国内最大規模の越冬地であるが、いずれも周辺で埋立事業が行われており、生息数の増減はこれらの事業が影響している可能性がある(福岡県 RDB2011)。

越冬期に、宇美川と多々良川の合流付近の水面や干潟で採餌する 3 個体が目撃された。移動時に採餌・休息する中継地となっている。



ホオジロガモ

福岡県：絶滅危惧Ⅱ類、福岡市：掲載種

冬鳥として内湾に渡来する潜水ガモ(海ガモ)。甲殻類・貝類など小動物などを採餌する。九州では多くなく、内湾浅海の多様性を示唆する種。

博多湾東部海域では 100 羽以上が越冬しており、全国有数規模の越冬数となっているが、周辺で埋立事業が行われており、生息地の減少や環境変化により越冬数は減少傾向にある(福岡県 RDB2011)。

越冬期に、多々良川河口(名島地区)において、スズガモの群れの周辺などに最大 8 個体が目撃され、安定した利用がある。



ボラ捕獲

ミサゴ

環境省：準絶滅危惧、福岡市：掲載種

県内の海岸部のほぼ全域に周年生息し冬季は個体数が増える。北九州市曾根干潟では 1994 年に、沖の定置網の竹竿にとまっている 12 羽を同時に記録した。福岡市瑞梅寺川河口でも、同時に 19 羽が記録されたことがある。(福岡県 RDB2001)。

多々良川・宇美川合流付近では周年確認され、大学構内の上空にも飛来する。10 月下旬には、同時に最大 3 個体が同合流付近で確認された。繁殖期 5 月は出現頻度が低下する。狩りの成功率が高く、多々良川は優良な狩場と位置づけられる。調査地と隣接地区には営巣地は未確認。



地蔵の森付近を飛行中

ハチクマ

環境省：準絶滅危惧、福岡県：準絶滅危惧
福岡市：掲載種

九州では夏鳥だが、本県では繁殖未確認。九州北部は秋の渡り移動のルート上に位置し、付近では油山付近の多数の通過が知られている。丘陵地通過中に都市の上昇気流を利用することがある。

福岡県は秋の渡りのメインルートに位置しており、ルート上では多数のハチクマが観察される。秋の渡りルート・時期は把握されているが、春の渡りについては十分解明されていない(福岡県 RDB2011)。

9 月に大学上空や多々良川河口上空を西南西方向に移動するものが合計 37 個体目撃された。



出典：日本の鳥 550 山野の鳥増補改訂版
(株式会社文一総合出版、2008年4月15日、
撮影者：山形則男)

ハイタカ

環境省：準絶滅危惧、福岡市：掲載種

全長雄約 30～雌約 40cm。翼開張雄約 60.5～雌約 79cm。雄成鳥は上面が暗青灰色で胸から腹にかけてオレンジ色の横縞がある。雌成鳥は上面が雄成鳥より褐色を帯び、胸から腹にかけて黒灰色の横縞がある(福岡県 RDB2001)。

小鳥を狩るおおむねハト大の猛禽。本州以北で繁殖し、九州では冬鳥。本県は移動時の主要なルート上に位置する。

11月に東北東へ飛行する1個体が目撃された。渡りピークには相当数が通過しているとみられるが、都市域で休息できる環境が少なく、年変動もあり、本調査での出現頻度は低かった。



ハヤブサ

種保存：国内希少野生動物種、環境省：絶滅危惧Ⅱ類、
福岡県：絶滅危惧Ⅱ類、福岡市：掲載種

留鳥として生息し、離島や沿岸部の採石地跡地等の崖を利用し繁殖する。内陸部では観察は少なく、また渡り時期や冬期には多くなる。生息数は安定している(福岡県 RDB2011)。

9月、10月、1月に多々良川や市街地上空で成鳥各1個体が目撃された。近年、都市域への適応・進出も顕著で、今後、繁殖する可能性もある。



ハマシギ、写真後方はキアシシギ

ハマシギ

環境省：準絶滅危惧、福岡県：準絶滅危惧、福岡市：掲載種

全長 21cm。冬鳥として干潟や河口などに渡来する。

本種は最も個体数の多いシギであり、博多湾では 2,000 個体以上が見られることもあったが、近年減少しており 1,000 個体を超える群れはほとんど見られなくなった。減少の要因は埋立等の影響による生息環境の悪化のほか、繁殖環境の変化により、繁殖数が減少しているためともいわれている(福岡県 RDB2011)。

9月～4月にみられ、9月は多々良川右岸護岸上で1個体、1月は宇美川の干潟で8個体、4月は多々良川河口(名島地区)において90個体が目撃された。本来干潟汀線を好むが、名島側岩礁では海藻上でヨコエビ等を採餌していたようである。



オオソリハシシギ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類、福岡県：準絶滅危惧
福岡市：掲載種

全長約 39cm の大形のシギ。

県内には春と秋に旅鳥として干潟に飛来するが局地的。北九州市曾根干潟では国内有数の中継地となっており、春季には 400 羽を超える群れが見られることもある。しかし、渡来数は近年減少傾向にある(福岡県 RDB2011)。

9月に多々良川と宇美川合流付近の潟上で1個体が目撃され、水処理センターの護岸付近も利用していた。



コアジサシ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類、福岡県：絶滅危惧Ⅱ類、福岡市：掲載種

全長約 24cm と小型。

夏鳥として渡来するが安定的な繁殖地はなく、繁殖状況は年変動が大きい。繁殖地、飛来数とも減少している。(福岡県 RDB2011)。

4 月、5 月に多々良川河口(名島地区)において内湾で小魚を採餌し、海上のブイ上で休息する 2 個体が目撃された。



ツツドリ

福岡県：準絶滅危惧、福岡市：掲載種

全長約 33cm。

県内の主に標高 500m 以上の山地に夏鳥として渡来するが、個体数は多くない。現在のところ顕著な減少傾向は認められないが、託卵相手のセンダイムシクイが減少しているため、本種も減少すると考えられる。(福岡県 RDB2011)。

9 月に地蔵の森周辺のサクラ類の植樹帯で 1 個体が目撃された。

出典：日本の鳥 550 山野の鳥増補改訂版
(株式会社文一総合出版、2008 年 4 月 15 日、
撮影者：山形則男)



コシアカツバメ

福岡県：準絶滅危惧、福岡市：掲載種

夏鳥として飛来し、主に団地、学校、病院等の比較的大型の建物や橋梁において繁殖していたが、近年繁殖場所が減少し、個体数も減少している。鳥インフルエンザ対策のため学校等にかげられた巣が撤去されることが考えられる。また、同所的に営巣するイワツバメとの競合により減少している可能性もある。(福岡県 RDB2011)。

5 月に構内の上空で 1 個体が目撃された。



サンショウクイ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類、福岡県：絶滅危惧ⅠA 類

福岡市：掲載種

福岡県では 1980 年代までは繁殖が確認されていたが、近年は繁殖期の確認情報がない。南方系の別亜種であるリュウキュウサンショウクイは近年県内で増加している。(福岡県 RDB2011)。

秋の渡り(9 月)に九大構内の空中を鳴きながら移動する 1 個体が目撃された。

出典：日本の鳥 550 山野の鳥増補改訂版
(株式会社文一総合出版、2008 年 4 月 15 日、
撮影者：吉野俊幸)



出典：日本の鳥 550 山野の鳥増補改訂版
(株式会社文一総合出版、2008年4月15日、
撮影者：吉野俊幸)

オオヨシキリ

福岡県：準絶滅危惧、福岡市：掲載種

県内には夏鳥として渡来し、繁殖する。河川、ため池、埋立地などのヨシ原に生息する。繁殖には、ある程度の広さのヨシ原が必要であるが、湖沼・河川・海岸・湿地の改修、埋立などで繁殖地となるヨシ原が減少している(福岡県 RDB2011)。

4月、5月に、多々良川ヨシ原や宇美川の小面積ヨシ原などで鳴き声が聞かれた。宇美川のヨシ原は不安定な環境のため、渡来初期のペアリング前の一時的な利用とみられる。



センダイムシクイ

福岡県：絶滅危惧Ⅱ類、福岡市：掲載種

全長 12.5cm。ロシア東南部、中国東北部、朝鮮半島、日本で繁殖し、東南アジア、インドで越冬する。日本では九州以北に夏鳥として渡来し、山地の広葉樹林で繁殖する。林内の斜面の崖地に巣を作る。1巣卵数は4~6個。樹上で昆虫類を捕食する(福岡県 RDB2011)。

9月に地蔵の森、4月に農学部付近のサクラ樹上で、各1個体が目撃された。移動時に緑地を利用している。



(撮影者：茂田良光)

オオムシクイ

環境省：情報不足

メボソムシクイの1亜種とされていたもので、独立種とされた。知床半島以北で繁殖し、本州では5月下旬~6月上旬、9月下旬に通過する。

5月下旬に構内緑地や農学部圃場などで、合計4個体の囀りが確認・録音された。ジジロ、ジジロと囀り、地鳴きはジリツと顕著に2音に分かれる。

8月下旬、9月下旬には構内緑地や多々良川の堤防木立でメボソムシクイ上種が目撃され、両種は渡りの時期が若干異なることから、8月下旬はメボソムシクイ、9月は本種の可能性がある。



オオルリ

福岡県：準絶滅危惧、福岡市：掲載種

県内各地の標高 400m 以上の山地にはほぼ生息している。県内には夏鳥として渡来し、繁殖する。山地の溪流沿いの樹林に生息する。林道整備事業などによる工事や開発、温暖化による環境変化など生息域の減少が懸念される。また、密猟による補獲もあるものと思われる(福岡県 RDB2011)。

9月に地蔵の森で2個体、農学部校舎裏の樹林で1個体が目撃された。移動中で緑地を利用していた。



コサメビタキ

福岡県: 情報不足、福岡市: 掲載種

県内では秋の渡りの時期には市街地の公園や山地の比較的開けた山道などの人目につきやすい場所で観察される。しかし、繁殖期の生息情報が少なく、県内にどの程度繁殖個体が生息しているのか、はっきりとしない。明るい落葉広葉樹林や針広混交林に生息するが、その数は少ないと思われる(福岡県 RDB2011)。

9月に大学構内の樹林で1個体、地蔵の森で同時に最大4個体、貝塚公園で2個体、水処理センターの植栽帯で1個体が目撃された。4月～5月には名島城趾や水処理センターの樹上で各1個体が目撃された。



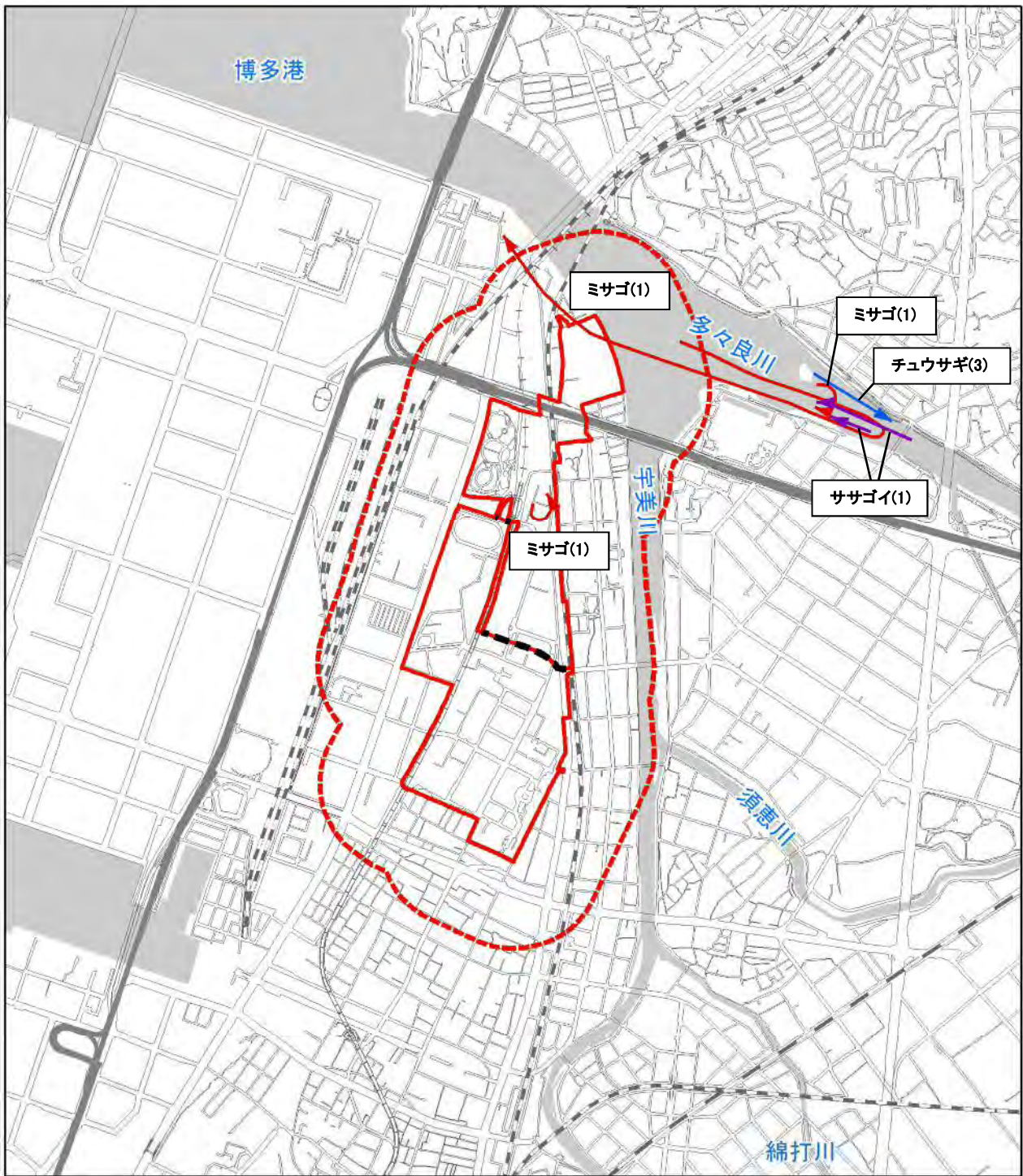
ツリスガラ

福岡県: 準絶滅危惧、福岡市: 掲載種

県内各地のため池や河川のヨシ原で見られる。生息地であるヨシ原は河川・ため池の改修などにより減少している。越冬個体、渡りで通過する個体とも近年減少している(福岡県 RDB2011)。

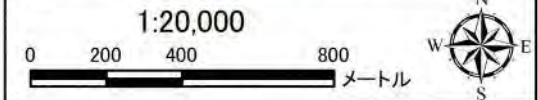
11月に多々良川左岸のヨシ原より5個体の鳴き声が聞かれ、4月にも同ヨシ原で2個体が目撃された。

出典;日本の鳥 550 山野の鳥増補改訂版
(株式会社文一総合出版、2008年4月15日、
撮影者:山形則男)



凡 例

- | | |
|-------------|-------|
| 事業実施区域 | ササゴイ |
| 調査範囲 | チュウサギ |
| 北エリア・南エリア境界 | ミサゴ |
| 福岡都市高速 | |
| JR | |
| 新幹線 | |
| 私鉄 | |
| 地下鉄 | |
| 水域 | |



※種名の後の()内の数字は確認された個体数を示す。

図 8.9-6(1) 重要な種確認位置(夏季(繁殖後期))